ながさきサンセットロード

～橋で繋がる教会と夕日の西海岸～

	人口	面積
長崎市	41万人	406㎢
佐世保市	25万人	426㎢
平戸市	2・9万人	235㎢
西海市	2・7万人	242㎢
松浦市	2.2万人	131㎢
佐々町	1.4万人	32㎢

(2020/2/1 現在)

日本風景街道

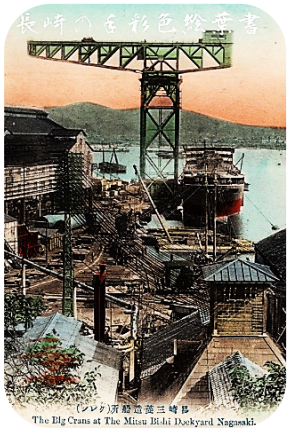
人のくに、美のくに九州　(日本風景街道Ｑ－３)

① 針尾瀬戸（佐世保市―西海市）を跨ぐ西海橋（固定アーチ、アーチ支間 216m、海面高 43m、1955）

「産業革命遺産」にいざなわれ
長大橋がつなぐ夕日の西海岸

その離島・半島の道１８０kmをドライブし
潜伏キリシタンの故郷と教会群を巡礼する

② 平和記念公園の平和記念像（1955、南島原市出身の北村西望作）



③ 世界産業革命遺産の旧グラバー住宅と長崎造船所ジャイアント・カンチレバークレーン

④ 平戸城天守閣から眺めた平戸港と中心市街地

⑤ 女神大橋から眺めた長崎港と中心市街地

東インド会社の出先機関オランダ商館が設置された２つの港まち―平戸と長崎―
1609 年　平戸に設置、　　1641 年　長崎出島に移設

目　次

一　離島・半島を結ぶ海洋文明の「ながさきサンセットロード」――1

1　海峡をぶらり跨ぐ離島・半島

2　半島ごとに区分されるサンセットロード

二　橋、教会と海洋景観のサンセットロード――3

1　サンセットロードを繋ぐ数々の「長大橋」

寄り道　川や海を渡る長大橋とは

2　世界遺産「潜伏キリシタン」の祈りと教会群

寄り道　現在の長崎のカトリック教徒と教会

寄り道　大工の鉄川与助が建てた教会群

3　多彩な「自然景観」を楽しむ夕映えの道

三　松浦水軍の本拠地「松浦・平戸」を行く――11

1　元寇の襲来に神風が吹いた島を訪ねる

寄り道　松浦一帯の集落名を「〇〇免」と呼ぶことについて

2　いち早く西洋と接した西端のまち「平戸」

3　平戸八景、九十九島を眺め、軍港都市とハウステンボスを巡る「佐世保」

寄り道　早岐瀬戸（はいきせと）

4　長崎北部地域の祭り、ホテル、情報案内など

四　夕日に映える西海岸「西彼杵半島と長崎半島」をドライブ――19

五　世界遺産と異国情緒の「長崎のまち」を巡る――20

1　世界遺産「明治日本の産業革命遺産」のまち長崎

2　数奇な運命をたどった斜面都市長崎をさるく

寄り道　長崎市への原子爆弾投下と被害状況

寄り道　坂本竜馬の長崎（亀山社中、海援隊）

3　長崎のまちのホテル、特産品など

寄り道　長崎ちゃんぽん

一　離島・半島を結ぶ海洋文明の「ながさきサンセットロード」

1　海峡をぶらり跨ぐ離島・半島

長崎県は、東シナ海を介してユーラシア大陸と相対峙する半島と島々からなり、加えてそれらを守るかのように小島が取り囲む構図をなし、複雑かつ特異である（図2および写真⑥、㉝）。その中で五島列島を別にすれば、**北松浦半島**、**平戸島**・**生月島**から**西彼杵半島**さらには**長崎半島**への一帯は、九州本島の最西端の地である。現在の自治体でいえば、松浦、平戸、佐世保、西海（さいかい）、長崎の各市と佐々町の5市1町だが、それこそが風景街道「ながさきサンセットロード」である（図1参照）。半円一直線に照らす真っ赤な夕日に映える半島と主要な島々は、いずれもが橋でつながっている（二章1節）。

本地域は、こうした環境のもと、かなり以前から西洋、中国、朝鮮半島、そして東南アジアの諸地域との交流が活発であった。多くの西洋文明やアジアの生活様式がいち早く伝えられ、わが国の中でも珍しい多文化融合の文明を築きあげてきた。

例えば、長崎を訪れると、世界に例をみない料理として「卓袱（しっぽく）料理」がある。宴会で食する機会も多いが、これは、和食と中華料理、オランダ料理が融合し、円いテーブルを囲み皆が一緒になって楽しむ食文化である。地元の人たちは、面白がって「わからん（和華蘭）料理」ともいうが、「わからん」とは、料理が混じりあってわけが分からないということではない。様々に興味を抱き、親交を深め、多彩に創造を豊かにすることの裏返しとも理解できる。

あるいは、卓袱料理に花を添えるように、お座敷唄の

図1　ながさきサンセットロードの略図

⑥　松浦市福島と唐津市肥前町の間の海域（伊万里湾）に浮かぶいろは島

九州で最後に閉山（2001）の炭鉱・池島（長崎市）（1974、国土交通省、国土情報ウェブマッピングシステム）―高島、端島と同じく炭鉱跡見学ツアーがある。

⑦-2 黒島天主堂（佐世保市黒島）の内部

⑦-1　鉄川与助の設計・施工の山田教会（平戸市生月町）

⑧ 長崎市野母崎の変はんれい岩(億８千年前と推定)

「ぶらぶら節」が良く唄われる。この歌は、自由に唄いつなぎながら、追加され変化してきた長崎の民謡だが、その中の有名な一節は、

長崎名物はた揚げ盆祭り　秋はお諏訪のシャギリで
氏子がぶーらぶら　ぶらりぶらりというもんだいちゅ

これから、長崎にどんなイメージが抱くだろうか。和華蘭文明のまちか、それとも興味が交じり合う文化豊かなまちか。あえていえば、「ながさきサンセットロード」はそうした「わからん文明・文化」をもつ半島や島々をぶーらぶらと巡る旅である。

ところで、地図の上で、今一度、本風景街道地域を見入ると、西は東シナ海、五島灘、天草灘、東は玄界灘、伊万里湾、そして大村湾、橘湾、場合によっては有明海と、海また海に取り囲まれている（図2）。その結果、半島の幅は約２０km に過ぎないが、南北は直線にして１５０km と細長く伸びている。その姿は井戸から水を汲みだすポンプにも、水をすくう人の手のようにも見え、とうとうと流れる対馬海流の恵みを少しでも多く汲み上げんと躍動している。

これで思いつくのが、かつて地中海のクレタ島で生まれ、クノッソス宮殿や陶器類で知られる海洋文明がエーゲ海全体へ広まったことである。沖縄・奄美の琉球文明が九州へ、済州島の風の文明が朝鮮半島へだが、本風景街道地域の文明もこれらに類している。荒れ狂う海に向きあう斜面地域で、必死に耐えながら、絶え間なく流れ来る対馬海流から、アジア、西洋の文明・文化を最大限に汲み上げ、それらを融合させ、奥深い味わいをもつ「卓袱文明」を発展させてきた。その結果が、前述の国際色豊かな食文化を生み出し、多彩な暮らしをもたらし、西洋医術の発達を促した。あるいは、世界文化遺産群として今に残る産業革命があり、守りに守ったキリスト教の伝来と継承があった。壱岐、対馬、五島列島へはむろん、九州、さらに江戸を介し全国諸地域へと伝搬の役を果たした。

わが国の最西端の半島・離島とはいえ、「ながさきサンセットロード」の一帯から発した文明・文化を訪ねる〝ぶーらぶら、ぶらりぶらり〟の旅も、幾度となく訪ねれば、平戸名物の焼きあご（トビウオ）のように、最初は硬くても、噛めばかむほど味わい深くなり、潮風の文明・文化を満喫することができる。

2　半島ごとに区分されるサンセットロード

ながさきサンセットロード風景街道地域には全体で８０万の人々が暮すが、その殆どは北と南に分れ、対をなしている。北の拠点・佐世保市に２５万人、南の長崎市に４１万人。両者だけで地域全体の９割近くを占める。

このことと地形要因から、道路以外の交通施設は必ずしもサンセットロード地域に十分に及ぶとはいえない。長崎国際空港は大村湾の南よりに位置し（図2）、鉄道および港湾は佐世保、長崎の２つに分かれ、それらの間には大村湾の東よりを通る鉄道があるにとどまる。肝心の風景街道を連ねる西彼杵、長崎半島には、空港もなければ、鉄道も十分及ぶものではない。現在、建設中の新幹線長崎ルートは佐賀県の武雄・嬉野からトンネルで抜けて新大村・諫早を経由し、現長崎駅を終着駅とすることにとどまる。

そうなると頼りは路線バスである。西彼杵、長崎半島は、乗り継ぎも含めて国道２０２号を通り、板の浦（西海市大瀬戸町）、桜の里ターミナル（長崎市桜の里）、長崎新地バスターミナル（長崎市新地町）を結ぶ路線がある。北部は佐世保バスセンターを中心に、松浦、平戸、早岐、西海の各方面に向けた路線がある。しかし、これらは、ある程度本数はあるものの、行き先や曜日、時間帯によっては必ずしも十分でない。乗り継ぎが求められることも踏まえ、事前のチェックが望ましい。

こうした実態から、本風景街道の回遊は基本的に道路に依存し、車によるドライブやバスツアー、サイクリング、場合によっては、部分的だがバックパッカーの小旅行も必要である。とはいえ、全部を巡るとしても、数日もあれば、めぼしい風景スポットを訪ねることができ、後述する資源内容からして、それにふさわしい価値をもつ風景街道であることが指摘できる。

図２　長崎サンセットロード地区への流出入３拠点と３回遊ルート

（メインルート）

図１に、ながさきサンセットロードの道路網を示す。南北の道路として国道２０４号、２０２号が基本であり、これを補完するため、平戸では国道３８３号、佐世保では国道３５号、長崎では国道４９９号が繋がっている。因みに、図中の松浦半島のＡ（松浦市福島口）と長崎半島のＢ（長崎市野母崎）の間の道路延長を求めれば約１８０km であり、車で走破するにしても数時間を要する。また、国道４９９号は、長崎市内では出島海岸通り、大浦海岸通りと呼ばれ、野母崎脇岬から先は海で、ルートとしては天草灘を経て阿久根市に至る。

これらの国道と、平戸市生月島への県道１９号、４２号、西彼杵半島北部の県道４３号を合わせたものが「ながさきサンセットロード」（図１の赤太線）の主な道路であり、これにつながる3桁国道や県道を加えた道路網が本風景街道の基本の骨組みをなしている。

（本風景街道区域へのアクセスと区間分割について）

長崎県から隣接の九州諸地域に繋がる国道、高速道路と、サンセットロードの幹線道路とを示せば、図２のとおりである。これで明らかなように、福岡・佐賀方面からの高速道に九州横断道**長崎自動車道**

（Ｅ３４）がある。また、福岡から糸島、唐津（玄界灘風景街道）を経由し、松浦、佐世保、武雄を回る**西九州自動車道**（Ｅ３５）の整備が進んでいる。これらは北部九州の隣接各地から出入りする基幹の道路である。その一方で、中九州の阿蘇・熊本地域や天草からの回遊路がある。有明海沿岸道路の整備が進みつつあり、大牟田市の三池港や宇土半島突端の三角港、天草下島の本渡港と、島原半島の諸港とが結ばれ、有明海の沿岸の各地を渡ることができる。

こうした交通網と隣接の風景街道の存在を念頭におくと、ながさきサンセットロードへアクセスするには図に示す３つの流出入拠点（伊万里、武雄、諫早の各市）があげられる。したがって、サンセットロードを３つの区間❶、❷、❸に分割すれば、流入拠点を踏まえた回遊ルートが計画でき、好都合である。

◎　玄界灘風景街道、または福岡、唐津から西九州自動車道をつたえば**伊万里市**に至り、これに隣り合うのが本風景街道の松浦市で、さらに北岸を進み、平戸市へ進むと、佐世保市に至る松浦区間❶（約１８０㎞）に至る。なお、これからそのまま福岡、唐津方面に戻る場合は、国見道路に沿って伊万里市への国道４９８号（図中のグレイ点線の矢印）をたどるとよい。あるいは、佐世保市から西九州自動車道を進み武雄市に至れば、高速道経由で戻ることができる。因みに、佐世保市の佐世保中央ＩＣと福岡市の天神北ランプ（長崎自動車道＋福岡都市高速道）との間の走行時間は約２時間である。

◎　福岡、佐賀および大分方面からの出入りとなる長崎自動車道は**武雄**で分岐。その一つの西九州自動車道は佐世保市に至り、松浦区間❶をたどる。いま一つは西彼杵半島の区間❷（延長約９０㎞）を回遊し、さらに長崎市から区間❸（延長約６０㎞）へとつなぐことができる。

◎　長崎自動車道を用いて福岡、佐賀から、または整備が進みつつある有明沿岸道路を伝って諫早市へ。あるいは、熊本、天草からフェリーで島原半島に渡り諫早市へ。これら３方向から**諫早市**に至り、さらに長崎自動車道や国道３４号を進むと長崎市に行きつく。その後は、区間❷さらに❸の回遊となる。

なお、図中の点線矢印の国道などをアクセス路に追加すると、**大村湾周回ルート**が構築できる。離島・半島とはいえ、実に多彩なコース設定が可能だが、これは次章１節に述べる長大橋で結ばれていることによるものである。

国内外の遠方から長崎へは、多くの人々が公共交通機関で出入りする。その際の主な拠点は長崎（国際）空港、長崎港、ＪＲ九州の長崎駅、佐世保駅、ハウステンボス駅である。それら各駅などからは、バスやレンタカーなどで、あるいは観光バスや観光タクシーなどで前述の各区間を回遊することとなる。

要するに、全てを一度に巡ればかなりの距離に及ぶ。このため、回遊の目的や内容に応じて無理のない範囲に分け、サンセットロードを３区間に分けると計画を立てやすい。あるいは、地域区分による場合は、図１の⑴平戸・松浦、⑵佐世保・西彼杵、⑶長崎となり、それらの各内容は三～五章に示す通りである。また、世界遺産の産業革命遺産を訪ね、隠れキリシタンの里を巡礼したいならば、高島や端島など、あるいは五島列島の島々や黒島への海路が加わり、海陸に跨る回遊を楽しむ旅となる。

二　橋、教会と海洋景観のサンセットロード

１　サンセットロードを繋ぐ数々の「長大橋」

「ながさきサンセットロード」地域は離島・半島であり、区域内を移動するにしてもかつては大きな迂回が強いられた。陸・海の交通を乗り継ぐ不便や天候の影響を強く受け、欠航で通交不能になることもしばしばであった。これらから、長崎県は、戦後の経済成長期を通じて交通の不便を解消するため、橋の建設に懸命であった。

その際、橋は川だけでなく、海峡を跨がねばならない。このことから、未だ経験したことのない長大な橋のデザインや、厳しい台風、激しい潮流に耐える設計・施工が求められ、その実現は容易でなかった。平戸島と松浦半島田平地区との間の平戸瀬戸、平戸島と生月島との間の辰ノ瀬戸、針尾島と西彼杵半島との間の針尾瀬戸、長崎湾の湾口部などを目の前にして、地域の人達は、実現困難と思いつつも長いこと橋をかける夢を見続けた。

問題は海峡等を跨ぐ長大な橋をどう実現するかだ。川ならば、橋台と橋台との間に橋脚を配し、その上に桁を並べる橋、アーチの踏ん張りに着目した石橋やレンガ造の橋などの工夫が考えられる。しかし、それらでは橋の安定や経済性、耐久性、建設における安全な作業の上で自ずと限界がある。抜本的にはそれらを乗り越える構造上の工夫や強靭な材料の開発が求められ、国内外に学びながらそうした問題を克服し、本地域の長大橋は整備されてきた。

厳しい自然環境下で、交通路である床構造をいかに強くて軽いものにするか、これを橋脚・橋台でどう支えるかなどの課題に対する克服である。

a　床構造について、Ｉ型やボックス型などの断面の桁に加え、トラス桁、箱桁などにより橋長を伸ばす工夫があった。

b　橋脚、橋台を地中の岩盤でしっかり支えるため、コンクリートや鋼製の杭、ケーソンが活用され、水圧下の水中施工が工夫された。

c　スパンの大きなアーチ橋やトラス橋、吊り橋、斜張橋など新たな構造形式の展開があり、橋脚を少なくする、省略する工夫が実現した。

d　材料では、コンクリートと鋼材の高品質化が進む中、プレストレストコンクリートや高

表１　ながさきサンセットロードの主な長大橋一覧

	橋　名	場　所	完成年	橋長m	タイプ
松浦	福島大橋	伊万里－松浦福島	1967	225	桁橋
	鷹島肥前大橋	唐津肥前－松浦鷹島	2009	1251	斜張橋
平戸	平戸大橋	平戸市岩の上－田平	1977	665	吊橋
	生月大橋	平戸市生月島	1991	960	トラス橋
	岩の上大橋	平戸市岩の上町	1992	290	桁橋
佐世保	西海橋	佐世保市東針生町	1955	316	アーチ橋
	早岐瀬戸大橋	佐世保市大塔町	1983	360	ﾗﾝｶﾞｰﾄﾗｽ橋
	瀬戸中央橋	佐世保市広田町	2009	228	箱桁橋
西海	寺島大橋	西海市大島町	1988	269	ﾆｰﾙｾﾝﾛｰｾﾞ橋
	大島大橋	西海市大島町	1999	1095	斜張橋
	中戸大橋	西海市崎戸町	1999	200	PC桁橋
	黒口大橋	西海市黒口郷	2003	270	桁橋
	新西海橋	西海市上杉崎	2006	620	アーチ橋
長崎	旭大橋	長崎市大黒町	1982	524	桁橋
	樺島大橋	長崎市脇岬長	1986	227	ﾗﾝｶﾞｰﾄﾗｽ橋
	日見夢大橋	長崎市芒塚町	2004	365	ｴｸｽﾄﾗﾄﾞｰｽﾞﾄﾞ橋
	女神大橋	長崎市木鉢町 - 戸町	2005	1289	斜張橋
	伊王島大橋	長崎市香焼町	2011	876	箱桁橋

注）薄青の網掛けは橋長500mを超える超長大橋

張力鋼などの開発があり、用いられるに至った。

ながさきサンセットロード地域では、こうした技術の進歩に支えられ、わが国でも他で例を見ないほど多くの長大橋が建設された。おかげでさまざまな建設上の工夫や苦労の足跡を追いかけながらサンセットロードを巡ることができるが、合わせて、離島・半島ゆえの苦難の道を尋ね、その生活や暮らしを目の当たりにすることができる。

寄り道に述べる定義に従い、本風景街道地域の長大橋を拾い出せば、図3および表1のとおりである。全部で18橋を数える中、実に15に「大橋」の名がついている。恐らく地域自慢の橋との意味合いを込めてのことだろう。その中に500mを超える超長大橋が8橋ある。

本風景街道の松浦市に関し、鷹島・福島と北松浦半島の中心部との間に佐賀県の唐津市と伊万里市が挟まれる。このため鷹島、福島を訪れるには、一度伊万里港の伊万里湾大橋（アーチ橋、橋長651m、うち海上部420m。2003年）を渡り県外に迂回する必要があり、これを含めると、本風景街道はメイン道路を10km走るごとに1つの長大橋に遭遇する勘定となる。

サンセットロード地域の橋については、戦後間もなくの1951年から工事が始まり（表1）、以来、時代ごとの先端技術を導入しながら、長い期間をかけて整備が進められてきた。それらを並べると、概ね4つの技術段階を踏み、現在に至るといってよい。

〈海峡を渡る長大橋建設のスタート…西海橋と福島大橋〉

最初は、国道202号の**西海橋**（佐世保市）①に始まる段階である。同橋は大村湾の出入り口・針尾瀬戸（日本三大急潮の一つ）に架かり、わが国の長大橋建設の先駆けである。1955年の完成であり、当時は東洋一、世界3位の長さの鋼アーチ橋であった。戦後初めての本格的な有料道路だが、1970年に無料化され、車や人が押し寄せ半島振興に大きく寄与した。その一方で、本格的な離島架橋として、1967年の**福島大橋**（松浦市・伊万里市）があげられる。延長225mで、両橋台の中間に2本の橋脚を配した桁橋である。いずれにしても、これらは長大橋の初期段階で、従来からのアーチ橋、桁橋を工夫・改善しながらの建設が行われた。

〈吊り橋、トラス橋の時代へ…平戸大橋、生月大橋〉

次は、トラス橋や吊り橋が長大橋に採用された第2段階である。世界的に見れば、こうした長大橋は、19世紀に始まる。サンフランシスコ湾の湾口に架かる金門橋（吊り橋、全長2737m、MS（床桁を支える最大支間長）1280m）は1937年の完成であり、イギリスのフォース鉄道橋（ゲルバートラス橋、全長2529m、MS521m）は、1890年の竣工で、100年余を過ぎてなおも現役である。九州でも、吊り橋では、若戸大橋（全長627m、1962年）、関門橋（全長1068m、1973）など5橋が先行し、トラス橋では天草1号橋（全長502m、1966年）、黒之瀬戸大橋（全長502m、1973年）が架けられた。

これらに対し、長崎サンセットロード地域では、吊り橋の**平戸大橋**⑩（全長665m、最大支間長MS465m）は1973年に建設が始まり、1977年の完成である。トラス橋の**生月大**

寄り道　川や海を渡る長大橋とは

半島・離島からなる本風景街道の売りの一つは、海などを渡る長大な橋が多いことである。しかし、長大か否かの判断基準はない。そこで著者なりの判断を風景資源の抽出に用いた。

人や物の移動のために架ける橋だが、その基本構造は単純である。移動体を乗せる床、それを支える桁、桁を受ける支承までの仕組みを上部工と呼ぶ。上部工を受け止め、大地に固定する橋台・橋脚・基礎の仕組みが下部工である。橋は、これら2つを基本とする自立した構造体である。都市等に見られる高架橋を除いて、川や海峡などを渡る交通のための橋に限るとしても、海峡等の幅が長ければ、橋は長大になるが、船舶航行のために必要なクリアランスや、水深、地盤状態、地形により大掛かりな構造になることもある。

一方、こうした橋の基本的捉え方による場合とは別に、短い橋を連ね全体が長大なとき、これまた長大橋と称している。例えば、デンマークのアマー島とスェーデン南部との間にエーレスンド海峡がある。その中間に人工島を建設し、そこからアマー島側に全長4050mのトンネルが、スェーデン側に全長7845mの橋（下写真）が建設され、1999年に完成した。これらは道路・鉄道併用で、総延長16kmのオーレスン・リンク（欧州自動車道路E20号線）の一環である。その中で、オーレスン橋は中央に全長1.092mの斜張橋があり、それ自体長大だが、これに続く前後の3014m、3739mに並ぶ桁橋の連なりが各々に長大であり、さらに全体で一つの橋とみれば、世界で最長を競う全長7845mの橋となる。

つまり、橋の規模の捉え方に、設計単体としての橋が大規模かどうかと考える場合と、海峡を跨ぐなどの機能を達成する連なりの長大なシステム橋を考える場合がある。しかし、風景資源としての視点に立てば、2つの意味の橋を区別する必要はない。両者いずれにしても長大と判断されるものが長大橋だが、それを定める基準はない。ただ、九州では橋が長大になれば、「○○大橋」と名づける傾向にある。その一方で、近年では長大な橋を構築するためにトラス橋や吊り橋、斜長橋といった橋単体が開発され、橋全体として橋脚を少なくするデザインがよく用いられている。

そこで、十分でないが、戦後の1945～2012年に九州で建設された150m以上の道路橋83本をみると（下表）、橋長200m以上で橋の名称に大橋を付する傾向が確認できる。このことから、単体橋、システム橋に関わらず200m以上の橋を長大橋とみなすことにした。その中で500mを超えるとトラス橋や吊り橋、斜張橋を含む割合が大きいことから、500m以上を超長大橋としている。人の意識による長大橋、超長大橋の判断である。

長大橋は一度に多くの車や人の移動を担い、床構造（床と桁）を支える支間が大きいほど橋脚が少なくて済む。これらから、床構造をより頑丈で軽くすること、たわみや振動、ねじれに十分耐えること、橋脚や橋台間の不等沈下を許容内にとどめること、突然の橋脚などの座屈に耐えることなどの厳しい設計・施工をクリアする必要がある。一方、単体であれ、システムであれ、人間のスケールを超える巨大物の景観は珍しく、驚異の鑑賞となり、優れたデザイン性や周辺環境との調和が望まれる。

橋長m	本数	○○大橋割合	吊り橋等割合
150以上～200未満	10	0.30	0.00
200～300	27	0.74	0.19
300～400	21	0.67	0.24
400～500	9	0.33	0.33
500～600	4	0.50	0.75
600～700	3	1.00	1.00
700以上	6	0.89	1.00

橋⑨（全長９６０ｍ、ＭＳ４００ｍ）は１９８３年に着工、１９９１年に開通した。

なお、生月島が吊り橋でなく、トラス橋になったのは、平戸島と生月島の間の辰ノ瀬戸が外洋に面し、夏、秋の台風、冬の季節風と厳しく、橋全体の剛性を高める必要があったものである。その検討の結果として、生月大橋⑨は、両端の橋台と中間の２本の橋脚で支える曲弦の形をした下路式の鋼トラス橋が採用され、本形式として世界最大の規模となった。あるいは、他の形を含むトラス橋全体でみても世界９位、日本３位。しかし、写真に見るように、デザインは素晴らしく、時代は異なるが、フォース橋（イギリス）のように鋼鉄の怪物ではない。ただ、潮風に晒され、部材が多いことから、さび止めなどの塗装が大変なことは否めない。フォース橋では端から端へとペンキを塗り終えるのに３年かかり、それを終えるとすぐに次が始まる。このことから、いつまでたっても終わらないことを、地元では「フォース橋にペンキを塗る」と例えるとのことだが、生月大橋の維持管理もそれに近い苦労があると推察される。

いずれにしても地方にあって、国内外の長大橋の技術を学びながら、これらの橋の建設に至ったことは並大抵のことでない。一章１節に述べたように、西洋文明のゲートウェイにあって、不屈の精神による挑戦のたまものである。

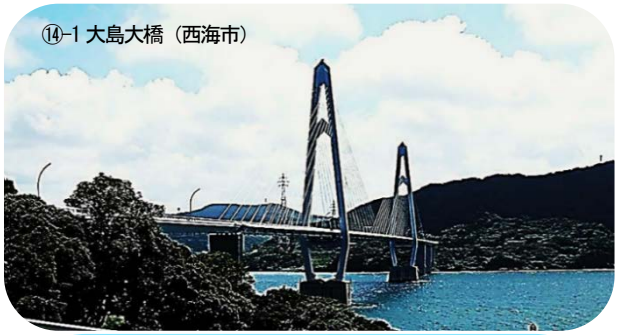
〈斜張橋導入の時代へ…大島大橋、鷹島肥前大橋、女神大橋〉

次の第３段階に入ると、長大橋の技術は革新的に変化を遂げた。それが、

○**大島大橋**⑭-１（全長１０９５ｍ、ＭＳ３５０ｍ、１９９９年、西海市）、
○**女神大橋**⑭-２（全長１２８９ｍ、ＭＳ４８０ｍ、２００５年、長崎市）、
○**鷹島肥前大橋**⑭-３（橋長１２５１ｍ（高架２７８ｍ）斜張橋
８４０（ＭＳ４００）＋高架１３３ｍ、２００９年、松浦市）

と、たて続けの長大な斜長橋の建設である。それまでの単に桁をロープで吊り下げるという考えと異なり、主塔を介して両側から斜めに引っ張り上げて、吊ると同時に桁に圧縮力を加え、より合理的に設計できる新たな橋の誕生である。かつての西ドイツで考案され、わが国へ導入された。ケーブルを固定する橋台を必要としない、桁の形状が曲線を含め自由に設計できるなどから、吊橋より望ましく、いまでは長大橋といえば斜張橋といわれるほどに普及している。因

図３　サンセットロードを繋ぐ長大橋群


⑭-1 大島大橋（西海市）

⑭-2 女神大橋（長崎市）

⑭-3 鷹島肥前大橋
（松浦市鷹島―唐津市肥前町）

みに、我が国最長の斜張橋は瀬戸内海の多々羅大橋（全長１４８０ｍ、ＭＳ８９０ｍ、１９９９年）。本地域内の女神大橋は６番目、肥前鷹島大橋は１３番目、大島大橋は１８番目である。

〈地域づくりと総合した長大橋づくりの時代へ〉

当然だが、技術の進歩は止まらないものの、第４段階は次の３橋を重ねての総括発展段階と考える。先ずは斜張橋を中規模の長さの橋にも用いるとの考えから、プレストレストコンクリート桁橋と斜張橋の中間で桁橋に近いエクストラドーズド橋とよぶ形式が導入されたことが挙げられる。フランスのマシバ教授の提案で、わが国では１９９４年の小田原ブルーウェイブリッジ（２７０ｍ）が最初で、橋長２００～５００ｍ規模の橋によく用いられている。長崎県下では、高速道路の長崎道の建設に当たり、長崎ＩＣから少し諫早方面に行った長崎市芒塚町（すすきづかまち）で建設された**日見夢大橋**⑫（橋長３６５ｍ、ＭＳ１８０ｍ、２００４年）がこのタイプで、海でなく谷超えの長大橋である。ある意味では、このエクストラドーズド橋の出現で、長短に関わることなく、プレストレスコンクリート桁橋から斜張橋に至る一連の橋づくりの技術について一つの体系が確立したといってよい。

一方、最近完成した超長大橋に**伊王島大橋**⑬（橋長８７６ｍ、ＭＳ２４０ｍ。２０１１年竣工）がある。この橋の主橋梁は３径間連続箱桁橋（全長８７６ｍ、ＭＳ２４０ｍ）で、前述までと異なり以前から用いられている形式の積極的な活用である。浅い海で、大型船の航行がない場合、狭い間隔で橋脚が建設でき、その上に箱桁（矩形または台形）を乗せる橋である。桁に曲線を入れることが可能で、きれいなシルエットを描き、また、主塔がなく周囲の自然景観に調和させることができる。

実は、天草下島（熊本県）に、港を横断する牛深ハイヤ大橋（全長８８３ｍ、ＭＳ１５０ｍ、１９９７年）がある。関西空港のターミナルビルを設計したイタリアの建築家レンゾピアノらによるデザインだが、これまた港を渡る箱桁橋で見事な曲線美を描き出し、景観上高い評価を受けた。伊王島大橋の設計も、確かでないが、この橋が念頭にあったのではとも考える。

さらに、最初の西海橋は完成から半世紀経過し、２００６年に、交通量の増大に伴い国道２０２号に平行して西海パールライン有料道路（西彼杵道路）が増設された。その中で、**新西海橋**⑪の建設では、従来の西海橋を含む地域全体の景観に配慮したデザインが採用された点で注目に値する。地形条件のため床桁が上路式か中路式かの違いはあるものの、アーチ橋で、新旧および周辺との全体的な調和が図られているが、他の形式だったならばどうだろうか。なお、新西海橋の桁下には歩行者専用の通路が設けられ、その中央部にのぞき穴が取り付けられている。肝試しのように、震える思いで真下を覗くと、渦を巻いてとどまらない潮流があり、流転する人生を垣間みる思いがする。

以上３つの橋は一見すると脈絡がないように思える。しかし、それまで交通基盤の整備を目的に、段階ごとに工夫して技術革新が進んだ上で、現場条件に合わせて真に最適な長大橋を整備する段階に踏み込んだことが、３つの橋に通じる第４の段階をなしている。国内外の交流社会の中で、防災や災害時への対応、景観や環境、維持管理や更新、利活用に一層配慮し、地域の活性化を図る橋の整備と維持に新たな価値を見出す段階に入った。あるいは、複数タイプの橋や、従来技術を最適に組み合わせての、地域づくりに適した総合的判断に対処する時代の到来であり、その意味を込めて、今後も海峡などを跨ぐ長大橋へのチャレンジは続くものと考える。

以上、ながさきサンセットロード地域で建設された長大橋の展開が４つの段階を踏んだことを紹介した。様々な形式による１８の長大橋が集中し、まさしく本地域は、そうした長大橋の技術を知る博覧会場である。その意味で、特定テーマ「長大橋」に沿った風景街道を組み立てることができ、「サンセットロード」の重要な地域資源である。海峡や瀬戸を跨ぎ、長大橋を眺めながら、それらが離島、半島の暮らしをいかに便利にしてきたか、なぜ各々で橋のタイプが異なるのか、他の形式ならどんな景観になっただろうかなどを考えつつ、今後の離島・半島のあり方に思いをはせることを期待したい。我が国の西海岸で、夕日に映える橋が風景の中に溶け込み、その景観から離島、半島に暮らす人々の苦闘の結晶である橋と海洋が織りなすコントラストを十分に堪能するとよい。

２　世界遺産「潜伏キリシタン」の祈りと教会群

サンセットロード地域は、我が国の西端にあっていち早くキリスト教の伝来があったというだけでない。貧困の中でキリスト教を信じ、国を挙げての弾圧下に、潜伏しながらもキリスト教を密かに守り抜

いてきた禁教の地である。世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（長崎、熊本県）は、そうした内容で２０１８年に登録されたものだが、全登録資産１２のうち半分が本サンセットロード地域に集中し、残りもその周辺の島や半島にある。その意味で、これこそが本風景街道の最大の見どころであり、キリスト教三大巡礼地（バチカン、エルサレム、サンディエゴ）にも匹敵すると考える。

〈キリスト教の伝来から禁教、そして隠れキリシタンの時代へ〉

長崎の人々のキリスト教信仰は、１５５０年、宣教師フランシスコ・ザビエルが、薩摩から南蛮貿易港・平戸を訪れ、布教を行ったことに始まる。以来、長崎地域は、天正遣欧少年使節の派遣で知られる大村純忠が日本初のキリシタン大名となり、その甥の有馬晴信などがまた洗礼を受けた。これは、南蛮貿易で利益をえたい、武器・弾薬を得たいとの思惑による。また、こうしたことから、領内で所によっては村ごとともいえるほど多くの人々がキリシタンとなった。特に、有馬領であった浦上は有馬晴信がイエズス会に寄進し、隣り合う長崎の６ヶ町には多くの教会が建てられ、キリスト教が大いに広まった。

しかし、時の権力者は、そうしたキリシタン達の拡大や結束で、従来からの他宗教との争いに脅威を感じ、キリシタン弾圧や禁教へと舵を切った。その主な経緯は次のとおりである。

a 豊臣秀吉は、１５８７年、九州平定の後、筑前箱崎（現在の福岡市東区箱崎）から**「伴天連（バテレン）追放令」**を発した。バテレンはポルトガル語のバードレのことで、司祭、神父を意味する。

b 次いで、**１５９６年に禁教令**を出し、弾圧に乗り出し、１５９７年、京都、大阪で活動していた宣教師や修道士など２６人を捕縛し、後述のように、長崎の**「西坂の丘」**⑲で磔の刑に処した。

c そして、徳川の江戸時代に入ると、さらに厳しい**慶長の禁教令**が１６１２、１６１４年の２度発せられた。前者は幕府直轄地の教会の破壊と布教の禁止であり、後者はその全国への拡大である。これらを受け、大名達の多くは改宗し、教会は破壊され、信者の追放や弾圧、迫害があった。

d 加えて、１６３７年に、**島原・天草で農民一揆**があり、それを指導した天草四郎をはじめ大多数がキリシタンであったため、制圧後、徹底した改宗が信者に求められた。つまり、宗門改め、踏絵、五人組などによる監視体制が強化され、「崩れ」と呼ぶ信者の大量摘発が行われた。これらから、過酷な弾圧に見舞われ、耐えられずキリシタンはいなくなったと思われたほどである。しかし、実際は、平戸・生月・外海（そとめ）・大村・浦上・島原・天草など多くの地域で、強い信念と

⑮ 平戸ザビエル記念教会とその内部

⑯ド・ロ神父像（記念館前）

図４　キリシタンたちのサンセットロード

結束の下、密かにキリシタン信仰が行われ、受け継がれた。外海地区などの信者は周辺の島々や五島島に移住し、隠れ続けながらキリシタン集落をつくったが、その多くは、交通が不便な急傾斜地で、待ち受けていたのはまたもやの貧困であり、これをのり越えたのは信者達の強い信仰心であったことはいうまでもない。

〈信徒発見と禁教令の廃止〉

そして、幕末になると、開港とともに居留地で、外国人の信仰の自由が認められ、横浜天主堂に続き、１８６４年に長崎の大浦天主堂⑰が建立された。これはフランス人の日曜礼拝のためで、フランス寺と呼ばれたが、見学は許されていた。翌年、その大浦天主堂に浦上の杉本ユリが訪れ、「ワタシノムネ　アナタトオナジ」（私の信仰は、あなたと同じである）と告げ、「サンタ・マリアの像はどこ？」と尋ねた。プチジャン神父は大変喜び、彼女を聖母マリア像の前に導いたが、その像は今も安置されている。まさにびっくり仰天の「**信徒発見**」で、時の教皇ピオ九世は「東洋の奇跡」と讃えた。さらに、外海や五島のクリスチャンにもこのことは伝わり、天主堂に出向き、秘密裏に礼拝し、洗礼を受けた。

しかし、日本人に対しては、大政奉還後も、新政府は五榜の掲示を出し、その第三札で「切支丹邪宗門厳禁」、つまり江戸幕府の禁教令を維持し、神道を国教とする政策を押し進めた。このため、幕末の混乱期から明治の初期にかけて、**浦上四番崩れ**（１８６７）や**五島崩れ**（１８６８）などの摘発が続いた。特に、浦上はこれまでも摘発を受け、幕末の４度目は仏式の葬儀を断ったことに端を発し、これを庄屋が長崎奉行に届けたことで信徒の存在が明らかになったものである。６８人が捕縛されたが、さらに明治の入ってからも摘発が続き、３千人を超える人々が各地へ流罪となり、その先で拷問や迫害を受け、多くの犠牲者が出た。これに対し、当然だが、諸外国は明治政府に激しい批判を浴びせ、その結果、高札は廃され、わが国もようやくに信仰の自由が訪れた。大政奉還から6年後の１８７３年（明治6年）のことである。それまでの２５９年に及ぶ実に長い、長い苦難と呪縛からの解放の瞬間であった。

〈潜伏キリシタンの復活など〉

その後の長崎の潜伏キリシタンの動きは2通りに分かれた。一つは、もとのカトリックに復し、教会を建設し、信仰をオープンにした人達で、通常「隠れキリシタン」と称している。いま一つは、仏教や神道の信仰と並存しながらも、キリシタン伝来時代の信仰形態を継承し続けた人達である。彼らが祀るメダイやロザリオはキリシタン伝来初期のもので、行事の際に唱える祈りの「オラショ（ラテン語で、祈祷文を意味する）」は、日本語にポルトガル語が混じる古い祈りで、門外漢からすれば呪文のようにも聞こえる。そうした中で、山や殉教地を信仰の対象にして、信者はカトリックに復帰しなかったが、こうした人たちを前者と区別し、「カクレキリシタン」と記述する文献もある。つまり、「潜伏」は、後に復活した「隠れ」と、伝統的な秘教などへと姿を変えた「カクレ」を合わせて世界遺産登録に際し用いられた呼称である。

風景街道として、平戸・生月から長崎半島までを巡る際、こうした弾圧の歴史や、キリシタン信仰の変遷の違い、信仰の力強さや意味を理解することが大切である。どうして苦しみながらも信仰に殉じたのか、キリシタン達の心を満たしたものは何か、潜伏のための工夫をどう行ったかなどだが、その見方や解釈は人により異なるであろう。

〈世界遺産「潜伏キリシタン関連遺産」について〉

とはいえ、ながさきサンセットロード地域に限るにしても、全ての教会や聖地を巡ることは難しい。そこで、勝手な判断だが、世界遺産に登録された教会等を中心にした主な教会と関連施設に的を絞れば図４および表２のとおりである。表には各教会の建設時期、建築上の特徴、教会活動における出来事などを略記しているので参考にするとよい。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、江戸時代のキリスト教禁止に関わる歴史を内容とする世界文化遺産である。前述するように、本風景街道地域には12資産のうち6資産がある。

一つは信徒発見の歴史舞台となった大浦天主堂⑰である。これは日本二十六聖人に捧げる教会であり、処刑場となった長崎駅近くの「西坂の丘」を向いて建てられている。正式名称も「日本二十六聖殉教者堂」である。

２、３番目に、出津（しつ）教会⑳－１と関連遺跡、および大野教会⑳－２とその集落が挙げられる。潜伏キリシタンの里ともいえる旧西彼杵郡外海町（現在の長崎市外海地区）に、１８７８年、ド・ロ神父⑯が出津教会主任司祭として赴任した。布教とともに貧しい人々のために孤児院、救助院、授産所などを設け、また、診療所を開設して社会活動を献身的に行ったことで知られ、それら一連の施設と、神父の指導により建設された出津、大野の両教会が登録資産である。ヨーロッパの教会（ウェストミンスター寺院やノートルダム寺院、ミュンヘン大聖堂など）のような華麗さ、荘厳さはない。質素だが風が強く厳しい斜面に建てられ、逆風の中、頑として信者を守り、信仰を貫く感が伝わるだろう。

４つ目に黒島天主堂⑦－２（佐世保市黒島町）とその集落がある。黒島は後に述べる九十九島の中で最大の島であり、樹木で被われ黒く見えることにその名の由来があるともいわれている。江戸時代、外海地区の人々が貧困と迫害から逃れて移住し、いまでは島民の約8割が信徒である。また、黒島天主堂は、

寄り道　現在の長崎のカトリック教徒と教会

現在、長崎県には6万人を超えるカトリック教徒がいて、東京大司教区に次ぐ規模である。このため東京、大阪以外で長崎県がまた大司教区体制である。１３０余の教会があり、ながさきサンセットロードの地域に限っても７２（長崎市３４、それ以外３８）がある。これに五島列島の５０を加えればほとんどの教会がこうした離島・半島地域に集中している。その意味で、ながさきサンセットロードは長崎におけるキリシタン達の教会を巡礼する道であり、長い間潜伏し、「沈黙」を貫いたキリスト教の聖地を訪ね行く道である。

⑰ 西坂の丘を向く大浦天主堂

表２　サンセットロードにおける主な教会群とその関連施設など

地区	集落、教会などの資産	指定等	教会所在地	完成	建築様式など	
平戸・北松	カトリック山田教会		生月町山田免442	1912	ロマネスク様式。煉瓦像平屋で正面石造。鉄川与助の設	潜伏キリシタンの信徒も多い
	紐差教会		紐差町1039	1929	ロマネスク様式、RC造2階建て、折上天井	潜伏キリシタン、仏教徒が混在
	宝亀教会	県有形文化財	宝亀町1170	1898	木造平屋、正面煉瓦造。リブヴォールト天井で、両側にバルコニーが設けられている。	
	平戸ザビエル記念教会		鏡川町259-1	1931	ゴシック様式、RC造。左右非対称の景観。	平戸地区の主管教会。
	平戸島の聖地（安満岳）と春日集落	重要文化的景観	平戸市		安満岳(やすまんだけ、標高530m）は平戸島の最高峰。春日集落は禁教期の信仰を続けた。	
	平戸島の聖地（中江ノ島）と集落	重要文化的景観	平戸市		中江ノ島は禁教初期にキリシタンの処刑が行われた殉教地で、聖水採取の場。	
	田平天主堂	国重要文化財	田平町小手田免19	1918	煉瓦造,リブヴォールト天井.鉄川与助設計。ド・ロ神父が黒島,外海から8家族を移住させ	たことに始まる。
佐世保	黒島の集落	国重要文化財	黒島町3333	1902	木造および煉瓦造、黒島は九十九島の中で面積最大の島。	
	三浦町教会	市景観デザイン賞	三浦町4-25	1897	ゴシック様式。	
長崎・外海	外海の大野集落と教会	国重要文化財	下大野町2619	1893	石を積み上げた外壁はド・ロ壁と称し、切り石を漆喰で固めたものである。	
	外海の出津集落と教会	国重要文化財	西出津2633	1882	煉瓦造平屋建てだが、2度の増築があり、現在のものは1909年完成。	
	遠藤周作文学館		東出津町77		作家遠藤周作に関する資料の収蔵展示と研究のための文学館。	
	カトリック浦上教会（旧称浦上天主堂）		本尾町1-79	1879年の創設,原爆投下で破壊,1959年に再建。建物、信者数とも日本最大規模のカトリック教会		
長崎・中央・南	日本２６聖人殉教地	県指定史跡	西坂町7-8		1597年に宣教師6人と信者20年が処刑された丘。100年(1962)記念に記念碑、記念館を建立	
	大浦天主堂	国宝(重要文化財	南山手町5-3	1865	五廊式でゴシック風建築様式。リブヴォールト天井	西坂の丘を向いて建設。
	（正式名　日本２６聖殉教者堂）				日本に現存するキリスト教建築物としては最古(原爆で破損したが倒壊は免れた）。	
	馬込教会		伊王島2-617	1931	ゴシック様式、RC造。三廊式、リブヴォール天井。	
ルート外における構成資産						
南島原	原城跡	国の史跡	南有馬町乙	1496	梯郭式平山城、1616年廃城。	島原・天草一揆の主戦場
小値賀	野崎島の集落跡	重要文化的景観	潜伏キリシタンが移住し信仰をつなぎ、1908年には旧野首教会を建立。しかし、1971年に集団離村で廃村となった。			
新上五島	頭ヶ島の集落	重要文化的景観	友住郷頭ヶ島638	1919	無人島だったが明治維新前後に中通島のキリシタンが移住。頭ヶ島天主堂(石造)を建築。	
五島	久賀島（ひさかじま）の集落	国重要文化財	蕨町993－11	1881年浜脇教会、1931年旧五輪教会として移築。木造。		
五島	奈留島の江上集落(江上天主堂とその周辺）	国重要文化財		1918	キビナゴ漁で資金を集め建設。木造で、鉄川与助設計。	1797年、潜伏キリシタン4家族移住
天草	天草の崎津集落	重要文化的景観		1934	崎津天主堂はゴシック様式木造(先頭部はRC造),鉄川与助設計。踏み絵を行った庄屋宅跡。	
注）	ピンクは世界文化遺産「潜伏キリシタン関連遺産」の登録資産					

⑱-１紐差教会（平戸市紐差）

⑱-２田平天主堂（平戸市田平）

⑱-３宝亀教会（平戸市宝亀）

ロマネスク様式の本格的な教会堂建築で、レンガ、木造の瓦葺き平屋建てである。

なお、黒島へは佐世保市の相浦桟橋から高島経由で渡ることができる。１日３往復の便があるが、中には島への燃料輸送のため、一般の車両が運搬できない便もあり注意が必要である。あるいは、佐世保市九十九島パールシーリゾートから黒島を巡るツアーがある。島内では公共交通機関はないものの、港から天主堂まで歩いてもせいぜい３、４０分の巡礼の道とみればよい。

「平戸島の聖地と集落」は、平戸市の春日集落などにおけるカクレキリシタンの地である。納戸にキリストや聖母マリアの絵を隠し密かに拝んだ。あるいは、神父が追放されて不在となる中、それに代わる代役をおいてコンフラリア（信心会）を組織し、島の最高峰・安満岳（やすまんだけ、５３０ｍ）⑨（平戸市山中町）や信者が処刑された中江ノ島㉘（平戸市下中野町）を聖地にして秘密のままに信仰を続けてきた。

参考に、世界遺産「潜伏キリシタン関連遺産」で、サンセットロード以外の地域の資産をあげれば、島原半島の原城跡、五島列島の野崎島の集落跡、頭ヶ島（かしらがしま）の集落、奈留島の江上天主堂と周辺、久賀島の集落があり、天草下島の崎津集落もある。船旅も含めて１～３日余分な日程を組めば寄り道ができる。

〈さらに関連して追加すれば〉

図４、表２に世界文化遺産登録以外の資産が含まれていることに気付くだろう。これらは、世界遺産を禁教期の資産に絞り込んだことで除外されたものが主だが、いずれも何らかの形で本世界遺産に関係

寄り道　大工の鉄川与助が建てた教会群

明治時代から大正、昭和にかけて隠れキリシタン達は各地に天主堂を建てた。その多くの設計・施工を担ったのが大工の鉄川与助（１８７９～１９７６）である。彼は現在でいえば南松浦郡新上五島町の出身で、冨江藩御用大工の家系に生まれた。高等小学校を卒業の後、家業を手伝いながら、ペルー神父（フランス人）や野津棟梁の元で教会建築の技法を習得し、１９０６年に家業の建築業を受け継いだ。以来、桐の浦天主堂や冷水天主堂などを皮切りに、五島の島々はもとより、長崎県下の諸地域、福岡、佐賀、熊本、宮崎の各県における５０余ともいわれる教会の設計施工あるいは施工に携わった。その中には、隠れキリシタンの世界文化遺産に関わるもの（崎津教会、旧野首教会、頭が島天主堂、江上天主堂など）、国の重要文化財に指定されたものなどが多々ある。あるいは、原爆で破壊された旧浦上天主堂や、天草の大江教会があり、大浦天主堂横のド・ロ神父設計による大司教館の施工をも請け負った。

要するに、１８７３年に禁教の高札が取り除かれ、潜伏キリシタンの復活期に、教会を建てる宿命を背負ったスーパースターとして大工の鉄川与助が登場した。与助はキリシタンでなく仏教徒だが、人生の巡り合わせか、木造やレンガ造、石造、そしてコンクリート造、鉄筋コンクリート造と独学で次々に建築技術を習得した。その上で、リブ・ヴォールト（こうもり）天井、３廊式の内部、鐘塔・尖塔など、日本家屋と異なる教会建築にチャレンジし続けたことは並大抵でなく、新たなキリシタン文化創造への寄与は計り知れないものがある。

⑲　西坂の丘（長崎市）

⑳-1 外海の丘に建つ出津教会

⑳-2 石を積み重ねて作られた大野教会

している。その中の3資産をとりあげれば、1つは**「日本二十六聖人殉教地」**⑲である。前述のように、日本の信者20名、外国人司祭・修道士6名が殉教した地である。

16世紀末、キリスト教が広まるとともに、キリシタン大名やキリシタンによる寺社焼き討ち、僧侶への迫害があった。その一方で、仏教を信仰する大名のキリシタン迫害があった。そうした中、1596年にスペインのサン・フェリペ号が台風で遭難し、四国土佐沖に漂着。そして、その処理（積荷や所持品の没収、乗組員の扱い）や、スペインが武力制圧のために宣教師を送り込んできたとの誤報でトラブルとなり、これを機に豊臣秀吉は禁教令を公布し、それに挑発的なキリスト教徒の捕縛を命じた。大阪、京都で26名（全て男性。日本人20、スペイン人4、メキシコ、ポルトガル人各1）が捉えられて長崎に送られ、「西坂の丘」で処刑された。

西坂の丘が選ばれたのは、キリスト処刑のゴルゴタの丘に似ていたからとのことである。混乱を避けるため当日は外出禁止であった。それにもかかわらず、4000人もの人々が見守る中で処刑され、最年少はいたいけな12才の子供である。京都から長崎までの長い、長い道のりを歩き、そして磔の刑。信仰のための殉教とはいえ、どんな思いが去来したことだろうか。12才の子供は、棄教すれば命を助けるとの誘いを断り、「パライソ（天国）、イエス、マリア」と言いつつ死を選んだといわれ、イエズス会宣教師のパウロ三木は、死を目前にして群衆に信仰の正しさを訴えた。西坂の丘から現代の長崎駅や市街地、稲佐山を眺めるとき、長崎における潜伏キリシタン信仰とその歴史の原点がここにあるといってもよい。

天国（ぱらいそ）の夕焼け見ずや　地は枯れても　（水原　秋桜子）

26人は、1862年にローマ教皇ピウス9世により聖人の列に加えられ、日本二十六聖人と呼ばれるようになった。1962年、西坂の丘に記念館と記念碑が建てられ、また、大浦天主堂や日本二十六聖人記念聖堂、田平天主堂など、国内外の多くの教会が二十六聖人に捧げられている。これらに従えば、本風景街道の教会は、地域の人々の信仰だけでなく、訪れる人々にとっても二十六聖人をしのび、信仰の強さを知る巡礼の地になるであろう。

2つ目に外海（そとめ）の遠藤周作文学館をとりあげたい。遠藤周作は、昭和から平成時代に活躍した作家で、潜伏キリシタンを題材に多くのキリスト教に関わる歴史小説を著した。代表作「沈黙」は外海を舞台にした禁教期の歴史小説であり、その概要は次のとおりである。

ポルトガル人の司祭ロドリゴが師の棄教の謎を探り、またキリスト教の布教を図るため日本に潜入。しかし、信者の厳しい拷問によるいびきのような叫びに耐えられず自らもまた棄教する物語である。激痛を感じる踏絵で、イエスから**「踏むがいい。私はお前たちに踏まれるため、この世に生まれ、お前たちの痛さを分かつために十字架を背負ったのだ」**とも、**「私は沈黙していたのではない。お前たちと共に苦しんでいたのだ」**とも語りかけられたとして、神と信仰の意義を描き出している。

遠藤周作の死後、文学作品のために集めた資料は旧外海町に寄贈され、その収蔵と活用を目的に文学館が建設された。外海の海に面した夕日がきれいな丘の上にあり、道の駅「夕陽が丘そとめ」に隣接することから、気楽に立寄ることができる。

いま一つは田平天主堂⑱-2（平戸市田平町）である。明治期に黒島や外海から移り住んだ信徒により建てられたものである。レンガ造の堂々たる建物で、地名に因んで瀬戸山天主堂とも呼ばれている。高台にあり、平戸島を眺めることができる。設計者は鉄川与助だが、彼は本地域の多くの教会建設に携わり、田平天主堂もその一つである（寄り道参照）。

以上に述べるように、「サンセットロード」地域はまさに「潜伏キリシタンの地」である。それぞれに語り尽くせない苦闘、苦悩の歴史の道があり、多くの教会とその関連遺産や施設がある。わが国の中で、キリスト教に関しこれほどの施設、遺産が集積し、苦難と歴史を物語る地域は他にない。だからこそ遠藤周作の長崎を舞台にした作品に心迫るものを感じるが、一つ一つの遺産を訪ねることは巡礼の道そのものである。弾圧にめげず時代を乗り越えた信仰の力と信者の苦難をかみしめながら、生月島から、平戸、西彼杵、長崎、加えて五島列島、島原天草を訪ねるならば、各々の教会や聖地で祈るたびに生きる力がふつふつと湧きあがるであろう。

3　多彩な「自然景観」を楽しむ夕映えの道

「ながさきサンセットロード」は南北に長く、その地質に変化があり、趣を異にする３つの地形がある。その中で自然が生み出した素晴らしい地形景観があり、海映えの中で、あるいは夕映えの中で楽しむことができる。

一つは、北松浦や平戸地域における**「安山岩質の火山岩類」**が作り出した景観である。これらでは玄武岩の溶岩台地が広がっている。北松浦市から平戸市方面にかけて所々に砂岩の裂け目に貫入した玄武岩の岩脈をみることができ、その代表例が、松浦市福島の弁天島岩脈㉒および櫃崎（ひつざき）岩脈である。海辺で砂岩が波によって削られ、干潮時に黒色の玄武岩が壁をなし、あるいは漏斗状をなして現れる岩塊であるが、地元の人々はこれらを黒瀬と呼んでいる。一方、福島大橋の近くでは喜内瀬川（きないせがわ、福島の喜内瀬免）の河床（玄武岩）に甌穴（おうけつ）群を見ることができる。水流の浸食でできた川底などの穴のことであり、長崎県天然記念物である。

生月島では塩俵の断崖㉑、長瀬八洞、はなぐり洞門の海蝕洞がある。平戸島北部の安満岳は卓状をなす溶岩の山であり、島の南端には山頂に浸食で険しい露岩が突出した志々伎山（標高３４７ｍ）がある。これらの風景は九州北部に共通する断崖絶壁、奇岩の類だが、その姿は地域それぞれにおける厳しい環境を物語っている。

２つ目は、**「石炭層を含む地層」**の存在である。石炭がエネルギー源として主役をなした大正、昭和の時代に、平戸・北松浦から長崎半島までのすべての地域で採炭が行われた。中でも本風景街道地域は、平戸島はもとより、大島、蛎浦島（かきのうらしま）、崎戸、松島、池島、伊王島、横島、高島、中ノ島、端島（はしま）、さらには九十九島の一部をも含め、多くの島々から海底下にある石炭が掘られた。しかし、２０世紀末までにほとんどの炭鉱が閉じられ、最後は２００１年の池島炭鉱である。

㉑ 塩俵の断崖(平戸市生月島)

炭鉱の島々では、島民の殆どが炭鉱関係者であった。このことから、閉山と共に離職は直ちに島民の全てが離島となり、炭鉱跡は放置されたままのところが多い。後述の端島（長崎市野母崎）㊵もその一つである。その姿から「軍艦島」と呼ばれ、隣接する高島と共に「九州・山口の産業革命遺産群」の一つとして世界文化遺産のリストに登録されている（五章１節）。

３つ目は、今から**「約５億年前の変成岩の露出」**である。西彼杵半島、長崎半島にそうした岩石がみられるが、野母崎の変はんれい岩⑧は国道４９９号の脇に海中から突き出でており、間近くに見ることができる。通常、夫婦岩と呼ばれているが、子供達には、それこそ太古のモンスターが海中から突然現れたとの印象であろう。事実、同じ地域の白亜紀後期の三ツ瀬層（約８１００年前）からティラノサウルス科（獣脚類恐竜）大型種の歯の化石が発見されたとの報告があり、あながち突飛とはいえない。訪れて道路脇で実物をみるとき、皆さんはどう感じるだろうか。

㉒　砂岩に貫入した弁天島岩脈（松浦市福島町里免）

（注）　県道脇に駐車。解説板から狭い畦道を約200m歩いて下った先の海辺、または、解説板から少し戻って里免集落内に回りこみ、海岸堤防に出てその上を歩いた先にある。

㉓ 民族歴史資料館（鷹島神崎免）から我が国初の海底遺跡を望む

これら地質が織りなす風景に加え、サンセットロード一帯の海洋は小さな島が群れをなす**「多島地域」**である。とりわけ松浦市沿岸の鷹島、福島、いろは島⑥の一帯、および佐世保市の九十九島㉝（くじゅうくしまと読み、たくさんの島という意味である）は、いくつの島からなるか見当がつかない。岩礁の類まで含めると、どこからが島かはっきりしないが、通説では、「いろは島」は４８、「九十九島」は２０８の島々の集りといわれている。

三　松浦水軍の本拠地「松浦・平戸」を行く

佐賀県伊万里市から国道２０４号で県境を越えて長崎県松浦（まつうら）市に進むと、今福から調川（つきのかわ。古代の税である租庸調のうち，調に該当する皮を納めたことに由来する地名といわれている）に至るところに道路公園がある。そこでは、写真㉔－１に見るように、大きな武将の兜が目に飛び込むが、勇ましく、勇猛果敢ないでたちである。

現地の解説文によれば、松浦（まつうら）市は松浦（まつら）党（武士団）の発祥の地とある。嵯峨天皇の子孫「渡辺久」が１０９６年に御厨検校（みくりやけんぎょう）として今福町城山に梶谷城を築き松浦姓を名乗ったことに始まると述べられている。以来、北松浦、東松浦半島や玄界灘の島々の入り

組んだ津々浦々を活用して、松浦、彼杵、壱岐などを拠点に大陸との交易で活躍し、松浦党、松浦水軍の名をほしいままにした。

松浦氏には沢山の系譜があり、北松浦、東松浦一帯の地名を冠し、あるいは由来となり今日に至る。平戸藩の平戸松浦氏はその末裔であり、佐世保市は、御厨にいた松浦党の一族・佐世保氏が鎌倉初期に移住したことにはじまる。他にも、呼子、相知、多久、伊万里、有田、鷹島、福島、志佐、田平、小佐々、早岐などがあげられる。いまでもこれらの地名が残され、地図でたどると、およその勢力範囲が掴めよう。

㉔-1　松浦党の兜（調川道路公

1　元寇の襲来に神風が吹いた島を訪ねる

松浦市は北松浦半島とその周囲の島々からなる。したがって、北松浦半島地域は、国道２０４号をたどればそのまま玄海灘に浮かぶ島々を眺めながら風景ポイントを訪ねることができる。松浦党の本拠地・梶谷城跡、調川（つきかわ）道路公園、松浦市の中心市街地、石炭専焼火力発電所などと続く。また、途中には道の駅「海のふるさと館」があり、一休みできる（図５）。

一方、松浦市の鷹島や福島へは、当然だがかつては松浦の各港から船で渡った。しかし、橋ができた現代は車による行き来が主である。このため、鷹島へは松浦市今福港～殿浦港（飛島港経由）、御厨港～船唐津・阿翁港（青島、黒島経由）の２航路が残るに過ぎない（二章1節）。福島へは浦ノ崎～福島港のみである。

寄り道　松浦一帯の集落名を「○○免」と呼ぶことについて

表４を見てわかるように、松浦市、佐々町、平戸市の一部の松浦一帯で字名は「○○免」である。これは松浦や田平地区など、かつての平戸藩の各地で用いられてきた集落の呼称である。江戸時代、石高から貢租を除いた残りを自由に処分することを免（ゆる）した。たとえば、半々は「五公五民」だが、このことを「免五つ」といい、そのことからきたものである。

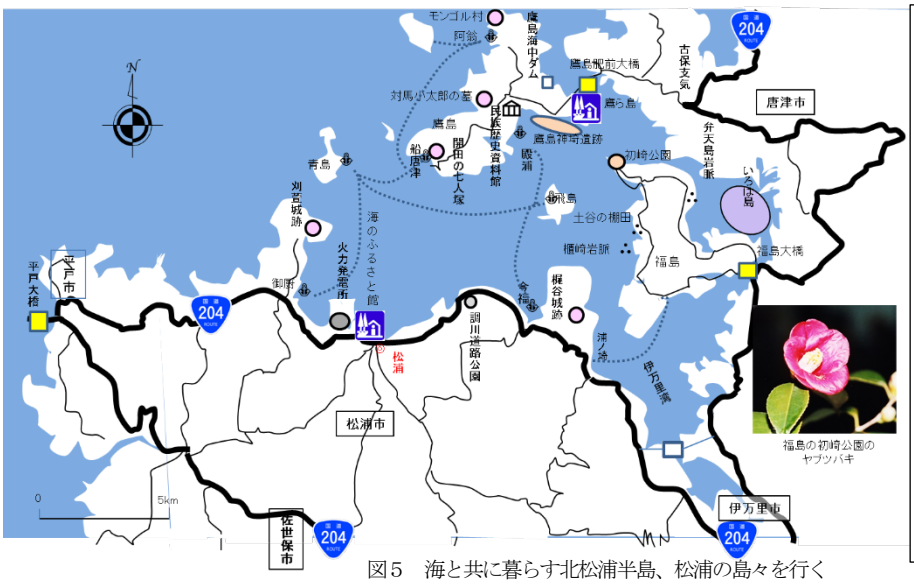


図５　海と共に暮らす北松浦半島、松浦の島々を行く

ややこしいのは、道路による場合で、隣県とはいえ佐賀県伊万里市、唐津市経由になることである（図５）。国道２０４号から唐津市肥前町の古保志気交差点で佐賀県道２１７号に入り、鷹島肥前大橋⑭-３を渡ればそこが鷹島である。橋のたもとに道の駅「鷹ら島」があるが、これを少し進むと民族歴史資料館があり　、島の状況や歴史を知ることができる。また、福島は、国道２０４号を南下し伊万里市と結ばれる福島大橋を直接渡ることとなる。

〈元寇の水中遺跡を抱く鷹島〉

その昔、鷹島は元寇の襲撃を受けた。松浦党の人々は総力を挙げて戦ったが、多勢に無勢。元軍の総兵力は１４万人、船艇は４４００隻で、沖合の壱岐島と同様、なすすべもなく多くの犠牲者がでた。

島の南端に「開田（ひらきだ）の七人塚」がある。船唐津免と呼ぶ集落の開田近くに八人家族が住み、元寇に際し隠れていた。しかし、鶏が泣いたため見つかり、灰ダメに隠れていたおばあさん一人を残してみな殺しにされ、七人塚はその悲劇を伝える供養塔である。

また、文永の役では元軍の襲来をいち早く対馬から大宰府に伝え、弘安の役では鷹島で戦い、重傷を負い自刃した対馬小太郎の墓が建てられている。対馬を望む里免清水川の南の丘の上にあり、さぞや無念であったであろう。

元寇の後は、再度の襲来を恐れ、しばらくの間は島に人は住まず、開田では鶏も飼わなくなったといわれている。このように、鷹島は元寇で壊滅的犠牲が強いられたが、幸運にも神風が吹き、多くの蒙古軍の船が鷹島の海底に沈んだ。

そうした事実を証明するかのように、鷹島町神崎免米ノ内鼻の沖合㉓で元の沈没船が発見された。わが国は無論、世界でみても重要な発見であり、引き上げられた軍船の残骸や遺品は民族歴史資料館に海水に着けた状態で展示されている。また、この海域一帯は「鷹島神埼（こうざき）遺跡」として、２０１２年に国の指定を受けたが、陸上ならぬ水域に設定された遺跡としては我が国初めてのものである。

鷹島では、現在、その北端にモンゴル村がつくられ、モンゴル民族の風習や生活が体験できる。島の人々から見れば、阿翁浦免（あおうらめん）周辺に首崎（現在の薫崎）、血浦（周良）、胴代（堂代）、地獄谷などと元寇との戦いの激しさを物語る地名を当て字に代え、怨念をのり超えての交流であり、島おこしが行われている。民族歴史資料館前に両国友好のモニュメントが建立されているが、まさに恩讐の彼方である。

㉔-2　土谷棚田の火祭り

〈海にかけ降る土谷棚田の福島〉

再び国道２０４号に戻り、佐賀県唐津市から伊万里市に入り福島大橋を渡れば、そこがまた長崎県松浦市の福島である（図5）。福島は元寇に関わるめぼしい遺跡はない。しかし、干潮時に玄武岩の黒い岩脈が浮かび上がる点で極めて珍しい地質をみることができる（二章3節）。また、島の北端には初崎公園があり、約５万本のヤブツバキが群生しているが、わが国最大規模で、松浦市の花でもある。加えて島の東には、多島景観の「いろは島」があり、西には、海に駆け降りる土谷棚田㉔-２の幻想的な夕映え、月明かりの景観がある。のんびり心休めるとよい。

２　いち早く西洋と接した九州本島最西端のまち「平戸」

国道２０４号をさらに西へ進むと、北松浦半島西端のまち旧田平町、平戸島、生月島が長大橋で数珠つなぎに繋がっている。このつながりの区域が、五島などの離島を除くと、九州本島で最も西に位置する都市・平戸市である。

平戸市は、丘陵をなすように山地が広がり、潜伏キリシタンの故郷だが、本地域に関し、すでに二章で述べた長大橋、教会、海洋景観に、若干を追加して、サンセットロードの主な景観ポイントを示せば図６のとおりである。平戸大橋から南端の宮之浦まで、国道３８３号で約１時間のドライブが楽しめる。

平戸港（市街地）と川内（かわうち）を繋ぐ川内峠㉕（標高２６７ｍ）は、険しさが際立つ沿岸域とは対照的に、こんなにも優雅な眺めがあったかと感服させられる草原景観（日本百名道）である。展望台から四方八方に広がる大パンマラを楽しむことができ、カクレキリシタンの信仰対象である安満岳⑨や中江ノ島㉘が望める（二章2節）。あるいは、その昔、平戸港から川内に商人が塩を運び、財を成した峠であり、「五足の靴」で有名な与謝野鉄幹や北原白秋、吉井勇などが訪れたところでもある。

山きよく　海うるわしとたたえつつ　旅人われや平戸よくみむ（吉井　勇）

また、突飛だが、平戸島の川内浦の浜辺に鄭成功（父親は福建省の貿易商で武装商団を率いた鄭芝龍、母親は浦人の田川マツ）が生まれた場所の鄭成功児誕生石㉖がある。鄭成功（１６２４～１６６２）は明時代の終わりに、台頭する清に対抗し、「反清復明」を掲げて戦い、一時期台湾に独自政権を打ち立てた英雄である。近松門左衛門の「国姓爺合戦」のモデルだが、その鄭成功の幼名は福松で、７歳まで川内浦で育てられた。

幼少期の家が川内浦の集落内に復元されている。また、鄭成功廟や海辺（千里ヶ浜）の鄭成功記念公園が整えられ、一時間もあれば、海辺の散策や川内浦の集落歩きとともに鄭成功関連の地をめぐることができる。

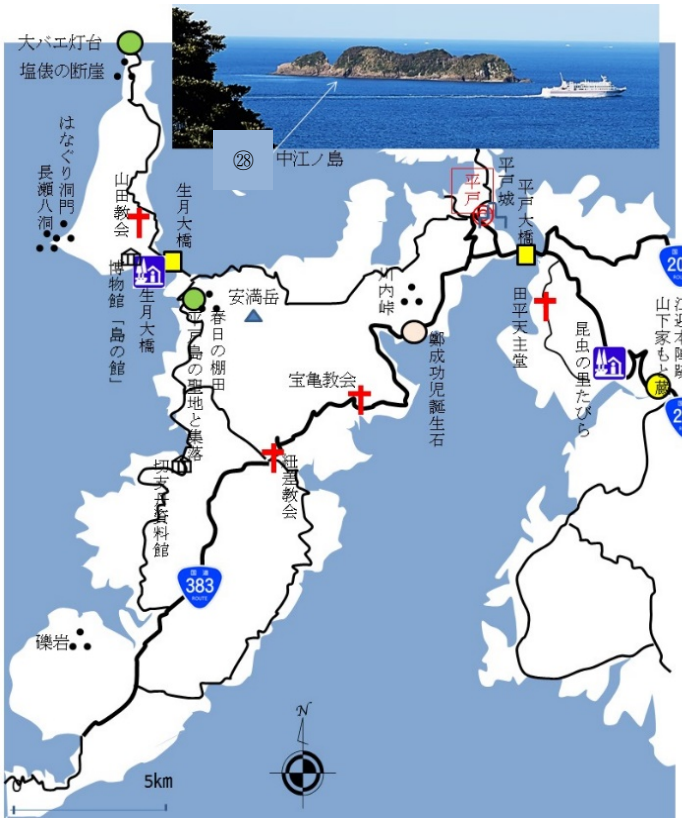


図６　平戸島・生月島を巡る

㉕　川内峠

㉖　鄭成功児誕生石

㉗　平戸オランダ商館(復元)

すように、モスグリーンに白で縁取られた教会はまさに絵姿であり、また、瑞雲寺、光明寺横から平戸ザビエル記念教会への階段の坂道㉚は、教会と寺院が重なる風景を見ながらの風情ある散策路として、若い人たちだけでなく、熟年者にも人気が高い。

教会から東へ周回すると松浦史料博物館に至る。かつての平戸藩主松浦家の館で、それ自体が県指定の有形文化財だが、千年にわたる松浦家代々の至宝の美術品や調度品など、国重要文化財の甲冑を含め

〈平戸城と平戸港周辺を歩く〉

さて、平戸市の中心市街地は北部の平戸港周辺④である。かつての平戸城の城下町で、平地が少なく、港を底にして周りを丘陵が取り囲むすり鉢状の地形である。このため、主要な道路はともかく、それを一歩入れば道が狭いばかりか、線形が悪く、行き止まりが多い。このことから、初めて訪れる人は車による回遊は難しいものの、幸いに、平戸城などに駐車場がある。特に平戸港交流広場に大きな駐車場と観光案内所があり、駐車は２時間まで無料である。そこに車を止めてまち歩きをすることをお勧めする（図7）。

図中のオランダ商館から平戸ザビエル記念教会まで約１㎞であり、坂道を歩いても２０分ほどである。主な見どころは、平戸城㉙であり、加えて、全国に先駆けてオランダやイギリスとの交易がはじまったオランダ商館（復元）㉗、オランダ塀、オランダ埠頭などがある。また、ザビエルが幾度も寄港し布教したことから、市民の心の支えとなっているザビエル記念碑や平戸ザビエル記念教会⑮を訪ねることも意味がある。写真に示

１２０００点以上が展示されている。庭に出れば茶室「閑雲亭」（１８９３年の建物）があり、お茶と殿様も食べた復元菓子をいただき一服できる。

〈生月大橋を渡り生月島に渡る〉

平戸島の北西、生月大橋を渡れば生月島に到着。この島は、かつての捕鯨の島で、潜伏キリシタンの島である。橋のたもとに博物館「島の館」があり、それらに関する資料が展示されている。また、主な見どころに、カトリック山田教会⑦-１があり、サンセットウェイをドライブすれば、柱状節理の塩俵の断崖㉑、夕日が一段と照り返る大バエ灯台がある。

要するに、平戸島・生月島のうち、平戸島は日本全体で２４番目の大きさであり、生月島はその１０分の１である。こうした小さな島々ながら、かつての国際交流の拠点であり、世界を相手に交易してきたビッグな島である。加えて、台湾の精神的支柱・鄭成功が幼少期に過ごした海辺があり、その一方で、カクレキリシタンの苦闘・苦悩と聖地、隠れキリシタン達の復活を象徴する教会がある。これらから、景勝豊かな島々の背後で秘められた物語を添えながら、国内外に果たしてきた平戸・生月の役割に思いをはせる島めぐりこそが本地域回遊の神髄にせまるものといえよう。

３　九十九島を眺めつつ「佐世保」を巡る

〈平戸から佐世保へ-平戸八景と北九十九島〉

平戸藩の参勤交代や長崎警護は、平戸城から対岸の日の浦（田平町）に渡り、そこから平戸往還（江迎、佐々、早岐を経て東彼杵に至る道）を通り長崎街道に合流する経路をたどったが、概ね国道２０４号に沿っている。そこで、平戸大橋から国道２０４号を南下し、田平町小手田免で県道２２１号に回り込んで南下すると、二章２節に紹介したカトリック田平天主堂⑱-２（国重要文化財）に遭遇する。見学の後、そのまま県道を進み、江迎湾近くで国道２０４号に戻れば、佐世保市江迎行政センターの少し手前に山下家もと蔵（潜龍酒造）がある。このもと蔵は元禄時代から続くとのことだが、その建物と一体的に連なって、平戸からの最初の御旅舎・江迎本陣㉛が昔のまま残されている。本陣は見学できるが、事前の確認（電話０９５６-６５-２２０９）が必要である。

㉙　平戸城 本丸

㉚　寺院と教会が見える風景

図７　平戸市のまちを歩く

佐世保市江迎町から北松浦郡佐々町を経由し佐世保市の中心市街地に至るには２つのルートがある（図４参照）。国道２０４号をそのままたどるルートと、本陣近くの交差点で県道１８号を行くルートである。

前者は内陸のルートで、おおむね平戸往還に沿うものであり、平戸藩主松浦熙（ひろむ）が選んだ「平戸八景」を巡ることができる。すなわち、北松浦半島一帯の地質は砂岩層に溶岩台地がかぶさる構図であり、それが浸食されて露出し、景勝地を創り出しているが、それらを八景にまとめたもので、表３に示すとおりである。殿様が参勤交代のついでにどんな風景を楽しんだかを知ることができ、表を参考にして、そのいくつかに立ち寄れば、殿様の気分に浸ることができよう。

一方、県道１８号は、西海国立公園の多島海景観を回遊するものであり、本風景街道のメインルートである。長串山公園（佐世保市鹿町）に至れば、平戸島および北九十九島を目の当たりにみることができる。また、わが国の本土の最西端である神崎鼻（こうざきばな）公園（佐世保市小佐々町）からは、北九十九島、平戸島、その先の五島灘に浮かぶ五島列島が眺望できる。そしてそこを南下したところが佐世保市相浦の港であり、二章２節に述べたように、そこから隠れキリシタンの島・黒島へのフェリーがでている。

〈南九十九島を遊覧し、佐世保市街地を巡る〉

ところで、話は前後し重複するが、改めて佐世保市の海洋風景を展望すれば、他ではあまり見られない海洋性の多島景観の広がりに感動するであろう。五島灘の沖から親子連れのクジラの大群が押し寄せるかのようにみることができ、大小さまざまな九十九島㉝が浮かぶ。これらは、第３紀層の丘陵が浸食

表３　平戸八景

八　景	形状など	場所（全て佐世保市、MRは松浦鉄道のこと）
高岩たかいわ	高さ約30mの崖	江迎町小川内（MR高岩駅前の国道204から見学できる）
潜龍水せんりゅうすい	高さ約20mの滝	吉井町草ノ尾（MR潜竜ヶ滝駅から20分。滝近くに駐車場）
石橋	長さ20mの石橋状の奇岩	吉井町直谷の石橋山中腹（西肥バス停・御橋観音入口）
大悲観だいひがん	高さ20mの海食残丘	小佐々町小坂。（西肥バス停・小島入り口）
眼鏡岩	長さ20mの眼鏡石橋状奇岩	瀬戸越町。（西肥バス停・堺木）
岩屋宮	幅10m、奥行き10mの海食洞	高梨町。穴妙見ともいう。
福石山ふくいしやま	幅50m、奥行き7mの海食洞	福石町。（西肥バス停・福石観音前）
潮目しおのめ	早岐海峡で幅10mと狭い箇所	早岐1丁目。（西肥バス停・観潮橋）

図８　海と丘のリゾート・佐世保

㉝　九十九島とクルーズ船

㉜平戸八景の眼鏡岩

㉛　平戸往還沿いの山下家もと蔵（左）と江迎本陣跡(右)

され、それが沈み島々をなしたものである。大部分は無人島だが、先に紹介した世界遺産の黒島も加えて、高島、前島、蓼泊（とうどまり）の四島が有人島で、うち後半の２つは九州本島に橋で繋がっている。また、九十九島は平戸藩主・松浦静山のネーミングだが、秋田県の象潟（きさかた）九十九島にならい名付けたとされている。１８１２年に測量に訪れた伊能忠敬は、佐世保で新年を迎え、

七十に　近き春にぞ　あひの浦　九十九島を　いきの松原

と長寿を願いつつ複雑な海岸線や島々を測量し、平戸島に向かった。

この九十九島は、佐々町の佐々川河口の延長を境にして北と南に分けられ（図４）、北では約１１５の島々を数え、どちらかといえば大きな島が多い。一方、南では約９０であり、小さな島が狭い範囲に密集するが、こちらは、佐世保市鹿子前（かしまえ）の九十九島パールシーリゾートからの遊覧船㉝で見物ができる。

九十九島を一望するために、九十九島八景の展望所が整えられている（図８）。そのうちの一つにハッリウッド映画「ラストサムライ」で撮影された石岳展望台（標高約１９０ｍ）がある。幕末から明治初頭に、時代から取り残されたサムライたちの生きざまを描いた作品（２００３年公開）である。アメリカと日本合作の映画といってよいほどに双方の俳優の参加があった。西郷隆盛の西南戦争をモデルにしたといわれているが、その冒頭のシーンは石岳展望台から眺めた九十九島である。古代神話のイザナギ、イザナミの国産みを彷彿とさせる光景として撮影されたとのことである。

佐世保市は造船のまち、海軍のまちである。展望所からまちを振り返ると、海上自衛隊や米海軍の大型艦船が停泊し、造船所のクレーンが立ち並ぶ光景は極めてメカニックな港湾都市㉞－１の姿であり、普

表４　佐世保市の近代化、近代化産業遺産など

施設の名称	住　所	建設年代	建設時用途	構　造	所有者	備　考
海上自衛隊西7号倉庫・艦船用品庫	立神町	1896	倉庫	煉瓦造2階建	海上自衛隊	
海上自衛隊佐世保史料館（旧佐世保水交社）	上町	昭和期	展示施設，事務所	RC造2階建	海上自衛隊	入場可
佐世保立神音楽堂（旧352倉庫）	平瀬町	1888	公共施設（倉庫）	煉瓦造平屋	財務省	
旧針尾無線塔	針尾町	1922	無線塔		財務省	国重要文化財，入場可
						（ニイタカヤマノボレ発信）
佐世保市民文化ﾎｰﾙ（旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館）	平瀬町	1923	集会施設	RC造2階建	佐世保市．	国登録有形文化財，入場可
西九州倉庫前畑8号倉庫	千尽町	1931	倉庫	RC造2階建	財務省	
海上自衛隊西1号倉庫・艦船用品庫	立神町	1910	倉庫	鉄骨煉瓦造2階建	海上自衛隊	
海上自衛隊西3号倉庫・艦船用品庫	立神町	1913	倉庫	鉄骨煉瓦造2階建	海上自衛隊	
海上自衛隊西5号倉庫・利材倉庫	立神町	1888	倉庫	煉瓦造2階建	海上自衛隊	
海上自衛隊西6号倉庫・被服返納庫	立神町	1888	倉庫	煉瓦造2階建	海上自衛隊	
西九州倉庫前畑1号倉庫	千尽町	1922	倉庫	石張RC造2階建	財務省	石張りに大きな特色
西日本冷凍前畑工場	千尽町	1917	倉庫	RC・煉瓦造2階建	財務省	
純心女子学園聖心幼稚園	三浦町	1930	教育施設	RC造3階建	民間	設計：鉄川与助
三浦町カトリック教会	三浦町	1931	教会	RC造平屋建	民間	入場可
ハウステンボスの船舶（近代化産業遺産認定）		1850	観光丸	長崎海軍伝習所練習艦としてオランダから江戸幕府へ贈呈		
（旧名スームビング号）				の軍艦（1855）　ハウステンボスで復元して利用。		
旧佐世保海軍工廠関連遺産（近代化産業遺産認定）	立神町	1889年に佐世保鎮守府造船部設置。1897年造船廠。1903年海軍工廠				
第3船渠（旧第4船渠）		1913	造修用ドッグ	コンクリート造、石造		
第4船渠（旧第7船渠）		1941	造修用ドッグ	コンクリート造		
第5船渠（旧第1船渠）		1895	造修用ドッグ	石造		
第6船渠（旧第3船渠）		1906	造修用ドッグ	コンクリート造、石造		
250t槌型クレーン		1913	造修用クレーン	鉄骨造		
旧館艦艇営業部・船舶営業		1922	製図工場	RC造、レンガ造2階建		
第2船渠（旧第5船渠）		1913	造修用ドッグ	コンクリート造、石造		
岡本第二貯水池　（立ち入り禁止）	十文野	1900	水道用	直径50~60mの円形	佐世保市	旧海軍が建設。佐世保最古
山の田ダム	桜木町	1908	水道用	ｱｰｽﾀﾞﾑ（高さ24.5m）	佐世保市	旧海軍が建設
倉渕橋	世知原	1919	道路（県道11号）	橋長20.6m、幅4.5m	長崎県	県内最大の単一アーチ石橋

段は見慣れない光景だけに珍しくさえある。

この佐世保市は、江戸時代、平戸藩の領土で、人口も明治の始めで約４千人の農漁村に過ぎなかった。

しかし、明治時代に入って佐世保鎮守府が置かれ、そのもとに佐世保海軍工廠が開設された。このことから海軍のまちとして急激な発展を遂げ、１９０２年に村からいきなり市制が施行され、その時の人口は４万６千人である。１８８９年の我が国最初の市政施行に含まれた長崎市の人口は５万５千で、大まかにはほぼ同じ規模の都市であったといえよう。

その後、佐世保には、海軍工廠関連の工場や事務所、倉庫などが建てられ、近代化が図られ、また、戦後も海上自衛隊や米海軍の基地が置かれた。そして、現在の造船会社佐世保重工（株）がそれらを引き継ぐが、長崎の世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」（五章1節）に匹敵し、明治、大正、昭和時代に用いられてきた近代化の産業遺産でもある。

表３はその一覧である。稼働中のもの（クレーン、倉庫、建物の一部）や、水中にあるドッグも含まれ、全部はみられないが、海上自衛隊佐世保史料館、佐世保市民文化ホール、旧針尾送信所㊲および三浦町カトリック教会は公開されている。あるいは、倉庫の一部やクレーン㉞－２（英国・サー・ウィリアム・アロル社製、１９１３年。国登録有形文化財）は道路沿いにあり、外から観ることができ、まち歩きのついでに眺めながら、近代化への道、軍事産業発展の道をたどるとよい。

〈佐世保総鎮守府と現代の佐世保港〉

近代化資産とは別に、文化庁の日本遺産がある。これは、地域の歴史的な経緯や風土に根ざした有形、無形の文化財をパッケージにして活用し、ブランド化を促し地域の活性化をめざす活動であり、その一つとして旧佐世保鎮守府が横須賀、呉・舞鶴と共に登録されている。明治から世界第二次戦争まで続いた佐世保鎮守府とその関連施設である。その構成文化財は、砲台、火薬庫、要塞、倉庫群など、また、近代化産業遺産と重複するが、クレーン、ドッグなどの施設がある。しかし、それらは秘密のベールに包まれ、説明を受けないと分からないものがあり、あるいは訪れるには辺鄙な場所にあるものがある。中には、現在の海上自衛隊の敷地や施設内にあるため、自由に見学できないものもある。こうしたことから、かつての佐世保鎮守府については日本遺産「海軍さんの散歩道」ツアーへ参加し巡ることを進める。例えば、艦船や都市を空爆から守る上で、高射砲台がつくられ、その防空指揮所跡㉞－３は海上自衛隊佐世保総監部敷地内の地下にある。このため、ツアーによるガイドの誘導のもとでしか立ち入りができず、その分厚いコンクリートでおおわれた実物を目の前にしながら説明を聞いて初めて指揮所の構図や設備の内容を知ることができる。

あるいは、海軍工廠由来の佐世保重工業（造船所）のドッグやクレーン、そして海上自衛隊、海上保安庁、米海軍の艦船がある現在の佐世保港の姿を見たいならば、行きかう軍船の間を縫っての佐世保港からの眺めとなり、ＳＡＳＥＢＯ軍港クルーズに参加することである。

なお、海軍さんの散歩道ツアーにしても、軍港クルーズにしても、見学日時が限定され、予約が必要

寄り道　早岐瀬戸（はいきせと）

大村湾は、東西２つの瀬戸（早岐と針尾）で針尾島を挟み佐世保湾に通じている。そのうち、早岐瀬戸（全長約１１㎞、平均幅約１２５ｍ）は運河にも見え、その途中に中小の川が流れ込んでいる。

ところで、奈良時代の肥前国風土記に「速来門」の記述があり、早岐瀬戸のことと推察される。当時は瀬戸の幅も今より広く、海陸交通の要衝で、すでに安土桃山時代には、周辺の海浜や島々からの海産物と、山々の農産物や獲物とを物々交換する茶市が立つほどであったといわれている。

以来、現代までの経緯をたどれば、江戸時代、瀬戸沿いの一帯で多くの新田開発があり、一部で塩田が開かれた。明治時代には、早岐駅、大村線が建設され、針尾海兵団が開設された。そして戦後、工業団地の造成が進められるも水問題で停滞。代わりに大学やテーマパークの進出、針尾バイパスの整備、郊外型商業施設の進出があり、佐世保市発展の原動力の役を果たしてきた。その結果が、運河のような現在の早岐瀬戸の引き締まった姿である。

安土桃山時代に始まる早岐茶市は、江戸時代末期から明治時代中頃までが最盛期だが、今も毎年田植え前の５月と６月上旬の７、８、９のつく日の計４回開催されている。観潮橋から大村湾側へと瀬戸に沿う路上で、お茶、海産物、陶磁器などが出品され、近在の人だけでなく、長崎、佐賀、福岡方面からも訪れるとのことである。時期が合えば、４５０年の歴史を刻む茶市を覗くとよい。

である。佐世保観光情報センター（TEL０９５６-２２-６６３０）に問い合わせるとよい。

㉞-1　佐世保港

㉞-2 佐世保重工の 250t ハンマー型クレーン

㉞-3 旧佐世保海軍警備隊防空指揮所跡（地下壕）

として発展した。ＪＲ佐世保線の三川内駅近くに三川内伝統産業会館（美術館）およびうつわ会館があり、そこから２㎞程南下した三川内皿山に多くの窯元が集まっている。三川内焼きは白磁に青い染付けが行われることで有名だが、その絵として唐子が良く描かれ、また透かし彫りなどが施されることが多い。

佐世保市の市街地から国道２０５号を南下すれば針尾島に至り、ハウステンボス㊱がある。写真で見るように、オランダのまちをイメージしたわが国有数の規模（１５２ha）を誇るテーマパークだが、他と同様に、建設以来必ずしも経営はうまくいかず、二度にわたり経営者が変わるなどの紆余曲折があった。しかし、努力の甲斐があり、今では年間２８０万人を超える入場者で賑わっている。

テーマパークそのものが佐世保市内の町名（ハウステンボス町１の１）であり、サンセットロードとしても素通りできない風景街道の拠点だが、見るとなると１日がかりである。あるいは、光の王国など夜の見事なライトアップもとなれば宿泊が必要だが、それこそ施設内および周辺地域に豪華ホテルやシティホテルが完備し、何ら問題なく十分に楽しむことができる。

〈早岐瀬戸、三川内焼の里とハウステンボス〉

平戸八景の「潮の目」は、国道３５号と２０２号が分岐する早岐で、その瀬戸が最も狭いところでみられる。江戸時代の干拓で幅１０ｍに狭められ、観潮橋㉟（１９５４年）が架かり、九州本土と針尾島を結んでいる。橋の傍で干満差の急流なす瀬戸（潮目）を見ていると、自然の営みに魅せられ、いまにも吸い込まれる思いがする。その傍ら、カヌーに興じる人もいれば、横で急流に釣り糸を垂れる人がいて、引きが強く、大物と期待したものの、小魚を釣り上げて苦笑する瀬戸でもある。

観潮橋から武雄よりに約５㎞東に入ったところに三川内町があり、三川内焼の里である。朝鮮の役の際に平戸藩主が陶工・巨関（こせき。今村性を名乗った）を連れ帰り、最初は平戸島中野で窯を開いたが、陶土がなくなったことから転々とした後、最終的に三川内に移り、御用窯の三川内焼き

㉟　早岐の瀬戸と観潮橋（国道 202 号）

４　長崎北部地域の祭り、ホテル、情報案内など

1　松浦市

○　祭りなど

主な祭りとして松浦水軍まつりと土谷棚田の火祭り

㊱　ハウステンボス

㊲　旧佐世保針尾無線送信所(針尾無線塔)

がある。前者（10月）は、市役所周辺で繰り広げられ、武者行列、市民総踊りなどとともに、松浦党の貿易船を再現した山車のパレードがある。

後者（9月）は、海を背景にした福島の土谷棚田のあぜ道に灯篭を灯して幻想的な夜景（写真㉔-2）を楽しむもので、夕闇迫る中の点灯を見たいとカメラ片手に多くの人が押し寄せる。動と静。片や市民あげての賑わい、片や静かに語らい、思いにふける秋の祭りである。

○　旅館など

旅館等を表5に示す。市の中心・志佐町を主に、国道204号沿線地域（志佐、御厨、今福）と、鷹島、福島に分散している。変わったところでは、鷹島に前述のモンゴル村がある。宿泊用ゲルはモンゴルから持ち込まれたもので、こと変わって気分転換になるだろう。

○　食、特産品など

松浦市は水産業と農業が活発な地域。豊富な魚介類や野菜、果物がとれ、新鮮である。農産品では、御厨ぶどう、松浦メロン、松浦茶などがある。また野菜ソムリエを育成し、うまい野菜作り、安全安心の野菜の供給に励んでいる。

一方、松浦魚市場の水揚げ量は全国有数の規模である。アジ、サバは旬（とき）アジ、旬サバのブランド名で出荷され、福島活車海老や松浦ふぐ（トラフグ）の出荷がある。

工芸品として松浦市鷹島町の阿翁石（玄武岩）がある。粘り気があり、風化に強く割れにくいとのことで、平戸市のお城の石垣や幸橋（さいわいばし、オランダ橋とも呼ぶ）に用いられ、また福岡市の箱崎宮における一の鳥居（一六〇九年建立）も阿翁石である。

○　情報案内、道の駅など

観光情報は観光協会があり、福岡市に松浦市の福岡事務所がある（表6）。道の駅は鷹島とまち中の志佐町の2か所にあり、物産館とともに情報案内所もある。

2　平戸市

○　祭りなど

特に伝統的な祭りよりも、観光地らしく、桜祭りや花火大会、イルミネーション、海の幸などに関わる多くのイベントがある。そうした中、3月のひな祭りでは中心市街地の商店など132箇所で雛人形が飾られている。また、松浦史料博物館では、江戸時代の御輿入れの際に持参した雛人形や道具が展示され、見て回るのに最低でも1時間はかかる。さらに、10月から年末にかけて市内各地で「くんち」があり、おくだりや蛇踊り、獅子舞などの奉納があるが、10月26日の亀岡神社の平戸大々神楽（岩戸神楽）は国指定重要民俗無形文化財である。24番までのすべてが終了するには7、8時間を要するが、時がゆっくり流れる思いである。平戸城の見物がてらに心行くまで鑑賞するとよい。

○　ホテル、旅館など

平戸市は観光が売り物だけに、人口の割に多くのホテルや旅館がある。最も集中しているのは図7の平戸港、平戸城およびその周辺である。観光地図を見ただけでもざっと19を数え、高級旅館から民宿までさまざまなものがある。一方、平戸北部以外では、生月島8、中部3、南部7、田平3である。南部は全て民宿で、大部分は釣り客相手といってよく、釣り情報の入手には持ってこいだろう。

○　食、特産品

食などは松浦市と本質的に変わらない。魚介類、農産品が主である。その中で、あご（トビウオ）の塩干しや焼きあごが有名であり、酒の肴にもなり、日本料理のだしにもよく使われている。

また、平戸島、生月島には鎌倉時代からの放牧場があり、そこで育った牛は平戸和牛と呼ばれブランド化されている。他にも、平戸ヒラメ、うちわエビなどがあげられる。

表5　北松地域および西海市の旅館、ホテル

市町	旅館等	住所	電話
松浦市	石川屋旅館	今福町浦免	0956-74-0074
	松川屋旅館	今福町浦免	0956-74-0009
	山福旅館	今福町浦免	0956-74-0046
	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾎﾃﾙ吉野家	調川調下免	0956-72-5111
	浜の屋旅館	御厨調里免	0956-75-0035
	民宿光ケ丘	御厨調里免	0956-75-0636
	つるや旅館	志佐町浦免	0956-72-1155
	旅館すえひろ	志佐町浦免	0956-72-0545
	旅館ちづる荘	志佐町浦免	0956-72-0551
	松浦シティホテル	志佐町里免	0956-72-5000
	ﾎﾃﾙ櫻梅閣	志佐町庄野免	0956-72-1717
	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾎﾃﾙ海風	志佐町庄野免	0956-72-2000
	宮崎旅館	鷹島町阿翁浦免	0955-48-2709
	旅館鷹島センター	鷹島町中通免	0955-41-5011
	旅亭吉乃や	鷹島町阿翁浦免	0955-48-2030
	鷹島モンゴル村	鷹島町阿翁浦免	0955-48-2331
	福島温泉つばき荘	福島町喜内瀬免625－	0955-47-3155
	福島屋旅館	福島町塩浜免	0955-47-2028
佐々	青葉(ﾋﾞｼﾞﾈｽﾎﾃﾙ)	本田原免152	0956-62-2456
	民宿佐々川	松瀬免11-6	0956-62-2101
西海市	魚魚の宿	西彼町	0959-28-0345
	ビジネスホテルはしもと	西彼町	0959-28-0011
	民宿よしの	西彼町	0959-27-1200
	金波旅館	大瀬戸町	0959-22-0480
	旅館備前屋	大瀬戸町	0959-22-0069
	旅館松島屋	大瀬戸町	0959-22-0006
	長崎県立 西彼青年の家	西海町	0959-32-1337
	川島屋旅館	西海町	0959-32-9105
	松尾屋旅館	西海町	0959-33-2006
	割烹旅館呼子	西海町	0959-32-9545
	ホテル咲き都	崎戸町	0959-35-2050
	さきとRV村	崎戸町	0959-35-2050
	若葉旅館	崎戸町	0959-35-3301
	民宿浜田	崎戸町	0959-35-2270
	民宿椿の宿	崎戸町	0959-35-2340
	民宿海老寳	崎戸町	0959-35-3268
	島宿オープンハウス桜櫻	崎戸町	0959-35-3422
	新屋旅館	崎戸町・平島	0959-47-2010
	大島アイランドホテル長崎	大島町	0959-34-5511
	大島アイランドホテル別館民宿釣吉	大島町	0959-34-2851
	ﾍﾟﾝｼｮﾝマイネフロディア	大島町	0959-34-5004
	民宿大島	大島町	0959-34-4686
	民宿波まタ	大島町	0959-34-5300
	ペンションかもめ	大島町	0959-34-5553
	オーベルジュあかだま	大島町	0959-34-2003

表6　北松地域の直売所、道の駅など

市町	直売所	電話	住所
松浦市	農海産物直売所　海の里	0956-74-1544	今福町北免2009-323
	新鮮市場じげもん	0956-75-1544	御厨町西木場免343
	農産物直売所「松浦ふれあい広場	0956-72-3773	志佐町浦免1001
	栢ノ木農産物直売所	0956-72-4762	志佐町栢木免973-1
	たかの直売所	0956-72-3392	志佐町高野免1003-1
	漁協直売所　海の駅	0955-47-4110	福島町喜内瀬免680-2
平戸市	廻船問屋　平戸屋	0950-22-3288	崎方町833
	平戸ふるさと物産店　海菜味	0950-23-3734	職人町126
	ひらど新鮮市場	0950-23-8088	岩の上町228-1
	平戸市漁協「旬鮮館」	0950-22-3133	宮の町655-1
	平戸瀬戸市場	0950-21-1977	田平町山内免345-15
	瀬戸の寄り道	0950-57-3650	田平町小手田免1048-1
	いきつき山海の四季	0950-53-0807	生月町山田免936-3
	生月漁協　おさかな市場	0950-53-1571	生月町壱部浦168-2
	舘浦漁協　水産加工場	0950-53-1529	生月町山田免912-3
	舘浦漁協魚販売所	0950-53-3363	生月町南免4432-44
佐々	佐々皿山直売所	0956-62-5580	鴨川免189-1
佐世保	棚田街道	0956-66-2266	江迎町長坂172-4
	農産物直売所　山小屋	0956-66-3501	江迎町籠尾免362-1
	竹田さくらグループ農産物直売所	0956-68-2791	小佐々町黒石
	漁協直販所　こさざ	0956-69-3145	小佐々町楠泊1837
	冷水岳ふるさと物産館	0956-69-3255	小佐々町矢岳免1618-12
	吉井活性化ｾﾝﾀｰ「ソレイユ吉井	0956-41-2250	吉井町立石18-1
	農産物直売所　五蔵の里	0956-64-4512	吉井町乙石尾371-3
	生産者市場　安かっちゃん	0956-40-9788	皆瀬町654-1
	西海の恵直売所	0956-47-8970	相浦町1563
	よかばい相浦	0956-48-3201	相浦町1770-1
	楽園市場	0956-20-5211	崎岡町853-12
	野菜と花の広田	0956-26-5100	広田1丁目114
	世知原活性化施設「国見の郷」	0956-73-3600	世知原町開作71-1
	ひう花菜市	0956-31-9138	日宇町2092-1
	田舎のより道（竹の子グループ）	0956-59-3666	長畑町851-1
	わくわくふれあい市	0956-38-4386	重尾町3272-1
	針尾ふるさと館	0956-27-0600	針尾東町
	うきうき野菜市	0959-57-3933	宇久町平郷2524-26
	展海峰ふれあい工房	0956-28-3241	下船越町403
	しかまち活性化施設	0956-65-2744	鹿町土肥ノ浦免169-2
	柚木よかもん市	0956-46-2515	柚木町2274-4
	(有)黒髪カーネーション直売所	0956-46-1007	下宇戸町390-2
	とれたて処　広田店	0956-76-9267	広田1丁目37-23
	佐世保朝市	0956-22-9800	万津町市営駐車場内
市町	**農村レストラン**	電話	住所
松浦	海の里食堂	0956-74-0780	松浦市今福町北免2009-323
佐世	冷水岳ふるさと物産館	0956-69-3255	佐世保市小佐々町矢岳1618-12
市町	情報案内	**電話**	**住所**
松浦	松浦市観光協会	0956-72-1111	松浦市商工観光課内
	松浦市福岡事務所	092-406-2180	福岡市中央区大名2-8-18
平戸市	平戸港交流広場(観光案内所)	0950-22-2015	崎方町776-6
	平戸観光ウェルカムガイド	0950-23-8210	港交流広場にｽﾃｰｼｮﾝ有り
	平戸市観光課	0950-22-4111	岩の上町1508-3
佐世保	佐世保観光情報センター	0956-22-6630	三浦町21-1（JR佐世保駅構内)

○　情報案内など

平戸港の観光交通ターミナルには、ターミナルに加え、駐車場、観光案内所（０９５０―２２―２０１５）がある。市内定期観光バスや観光タクシーなどがあり、あるいはＮＰＯの観光ガイドがあるが、季節で異なったりするので、詳細は観光案内所に運行状況などを問い合わせるとよい。

3　佐世保市

○　祭りなど

佐世保市江迎町では、戦国時代に始まる水かけ地蔵祭りがあり、現在の千灯籠祭り（８月）である。また、旧佐世保市では次の２つのイベントが広く知れ渡っている。一つは、「ＹＯＳＡＫＯＩさせぼ祭り」。〝よさこい〟は高知市で始まり、全国に広まったものだが、佐世保市でも、「四ヶ町商店街」を中心に、１９９８年、まちおこしの一環として始まった。以来、毎年１０月に開かれ、いまでは２００近いチームが参加する大規模なものへと成長し、市内１０か所を超える会場で若者たちが激しく踊りまくっている。

一方、「ハウステンボス」では年間を通じてさまざまなイベントが催されている。その中でのお薦めは夜間に光り輝く冬のイルミネーション「ハウステンボス光の王国」であり、大晦日のカウントダウンである。いずれもテーマパークにふさわしい華やかなベイントであり、一千万球を超えるともいわれるＬＥＤが輝き、感動的である。

○　ホテルなど

自衛隊や米軍の基地があり、また九十九島観光、ハウステンボスがあることから、全体的に見て規模の大きなホテルが多い。佐世保市の街中エリアに多くが集中し、２４を数える。これに次ぐのがハウステンボスエリアの１２だが、大規模なホテルが主である。これら以外には南九十九島エリア３、北九十九島エリア５などがある。賑やかなところ、夜景がきれいなところ、眺望が効くところなど、好みで選ぶとよい。

○　特産品、食など

１９５０年代に駐在米軍から伝えられた佐世保バーガーが有名である。他に、レモンステーキ、鯛しゃぶ、九十九島かき、佐世保豆乳なども。加えて、海軍の食をもとにしたレトルトの海軍カレー、海軍さんのビーフシチュー、入港ぜんざいが売られている。これらの中でカレーは、艦艇や施設ごとに競うように調理が工夫され、曜日を忘れないように、毎週金曜日（かつては土曜日）の昼食にふるまわれているとのことだが、日本遺産「海軍さんの散歩道」のバスツアー（毎週金曜日）や港まちあるきツアー（第１、第３土曜日）に参加すると、海上自衛隊佐世保地方総監部くらま食堂の見学で鎮守府カレーを食することができる。

特産品は、民芸品の佐世保独楽、陶磁器の三川内焼き（平戸焼きともいう）がある。世知原の製茶、吉井のイチゴやメロン、小佐々の九十九島いりこ、江迎のいのししや黒豆、鹿町のタイの塩釜焼、あごだしなどもよく知られている。

㊳　キリシタンの里・外海西出津

㊴　水平一直線の彼方に沈む外海の夕日

表６に農産品や水産品の直売所を示す。佐世保市は、平成の合併で旧来からの北松浦郡の６町を編入し、今日の状態となった。このため、従来の町ごとに、また農協系と漁協系の別に直売所があり、それを引き継いだことから、表に示すように多くの直売所がある。これらでは野菜、花、魚、およびそれらの加工品が主に販売されている。

○　情報案内など

（財）佐世保観光コンベンション協会があり、その窓口がＪＲ九州佐世保駅構内の佐世保観光情報センターである。また、市内巡りの観光バス（０９５６―２２―６６３０）が１日２便、所要時間約４時間で運行されている。九十九島遊覧のパールクイーン乗船コースと、九十九島水族館海きらら見学コースがあり、佐世保駅に隣接するふ頭からは佐世保湾をめぐる「ＳＡＳＥＢＯ軍港クルーズ」が運航されている。

四　夕日に映える西海岸「西彼杵半島と長崎半島」をドライブ

先に述べたように、国道２０２号に加えて西海パールラインの整備が進んだことから、針尾の瀬戸に２つのアーチ橋、西海橋と新西海橋が並行して架かるが（写真⑪）、これらを渡る際に振り返ると、３本の煙突が目に飛び込む。これが、世界第二次戦争勃発時に「ニイタカヤマ　ノボレ」と打電し、歴史の１ページを刻んだ針尾の無線塔（針尾送信所、高さ１３６ｍ、国重要文化財）㊲である。鉄筋コンクリート製で、自立式の電波塔として我が国最大の高さを誇るが、いまではすっかり風景に溶け込む存在であり、それを眺めつつ渡ったところが西彼杵半島である。

西彼杵半島とそれに続く長崎半島は、国道２０２号と４９９号が五島灘に面し走る。また、女神大橋が建設されたことから、長崎市の混雑した市街地を通過することもない。これらから、海に向けて大きく眺望が開け、解放感あふれる高台のドライブを楽しむことができる（図３、４）。その様は、さしずめアメリカの西海岸・カリフォルニア・コースタル国定公園やオーストラリアのゴールド・コーストをドライブするに似ている。西海橋から長崎半島の先端の樺島大橋まで１００kmほどだが、一本道で、道の整備もよく、迷うことはない。ひたすら走るだけなら２時間半であり、北部九州にあって、海洋風景を満喫するにうってつけのコースである。

とはいえ、ただ走るだけでは疲れる。休憩を兼ねて3か所の寄り道を奨めたい。橋でつながる大島・蛎浦島（かきのうらしま）、外海および香焼・伊王島である。

大島・蛎浦島は、西海市となる前の旧町名は大島町と崎戸町であった。江戸時代は放牧場、明治時代は捕鯨のまち、大正・昭和時代は炭鉱町、そして現在は造船および製塩の町である。時代、時代に即して変身したが、対岸の西彼杵半島や平戸・佐世保、五島の眺望とともに、昭和の面影が残されている。自然の手のひらの中で、地域の産業や人々の活動が翻弄されながらも、どうあるべきか、今後どう変わるのが良いのか、橋でつながる島々の変遷とともにしばし思いにふけることができよう。

西海市に隣接するのが旧外海（そとめ）町（現在は長崎市外海）㊳である。赤貧の中で苦しみながらもキリストを信じたまちであり、それこそ遠藤周作が描いた「沈黙」の舞台である（二章2節）。大島から1時間のドライブの後、道の駅「夕日が丘そとめ」で一休みし、文学館で遠藤周作の世界に浸り、庭に出て、外海の急斜面や池島、五島灘を望めば、３６０度の大パノラマである。とりわけ、水平一直線に映える赤い夕陽㊴は、訪れる人々に感動を与え、言葉もない。

外海～香焼（こうやぎ）・伊王島の区間は、長崎市内を最後に残せばサンセットロードの中で最も長いドライブとなる。それでも約５０㎞、1時間半程度である。香焼は三菱重工の造船所で、かつて島だったが、今は埋め立てられて陸続きである。そして、その先に伊王島大橋⑬が架かり、渡ると天然温泉があり、青いきれいな海や海浜が広がっている。

長崎半島の突端は沿岸漁業の基地・野母崎である。伊王島から約1時間のところだが、小規模ながら函館と同様に陸繋砂州の上にまちがあり、その先、車で１５分ほどのところに日本最西南端に権現山展望公園がある。標高１９８ｍ。江戸時代、遠見番所が置かれたところで、天草や島原半島を望むことができる。黒潮がもたらした亜熱帯気候だが、年間平均気温は１８度で、気象台がある長崎市南山手町よりも０．８度高い。岬町には県立亜熱帯植物園（サザンパーク野母崎）が、また、樺島には大ウナギの生息地（国天然記念物）があるなど、他に見られない自然がある。

いま一つ。長崎半島の旧高島町（長崎市高島町）の高島や端島（軍艦島）㊵は、明治から昭和にかけ海底炭鉱（三菱高島炭鉱）があった島々である（二章3節）。特に端島は現在無人島だが、１８９１年の出炭開始以来、多くの鉱夫が集まり、ピークの１９６０年には島の人口は５１５１人に達し、世界最大の人口密度（８３６００人／㎢、東京都特別区の９倍以上）となった。しかし、１９７４年に閉山し、全員が離島し無人島である。その後放置されていたが、高島とともに産業革命遺産に登録され、後に述べるように、ツアー客が廃墟の様子を一目みたいと押し寄せている。

五　世界遺産と異国情緒の「長崎のまち」を巡る

１　世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」のまち長崎

日本の西海岸である本風景街地域では、その北から南まで国際交流が活発に行われきた。古くは松浦党と呼ぶ一団の人々の活躍があり、大陸との交易が活発に行われた。中世には平戸を拠点にしてキリスト教の伝来とともに、西洋との交易がいち早く推進された。さらに近世では、鎖国が続く中で長崎・出島が、わが国唯一、西洋との貿易の窓口となり交易が進められた。そして明治になると、本風景街道の２つの拠点都市、佐世保、長崎を中心に産業革命や都市の近代化が急速に促進された。

要するに、佐世保は海軍のまちとして、村から一気に市制がしかれたほどに産業の近代化が進み、官制の産業革命が推し進められた。その結果が、日本遺産「平戸藩の御用窯・三川内焼き」の一端を担う中で、「鎮守府、横須賀、呉、佐世保、舞鶴」による旧軍港４市の近代化があり、その佐世保に関わるこ

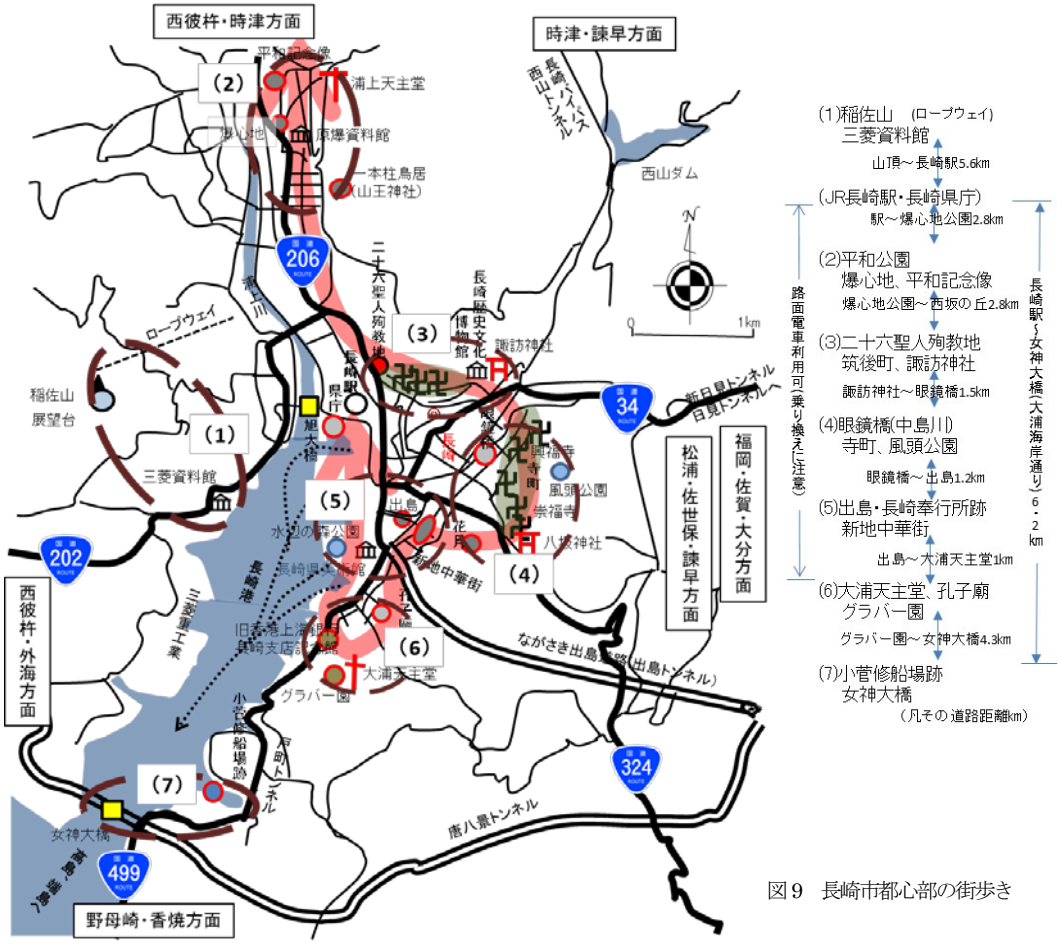


図９　長崎市都心部の街歩き

とは三章3節に紹介したとおりである。

他方、長崎市はオランダ、イギリスとの交易を活発化させ、坂本龍馬などの亀山社中・海援隊や事業家岩崎弥太郎の三菱など、民間の手による産業革命が進められた。その価値は、わが国はもとより、世界的に認められ、それが世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産　製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」（２０１５）である。

こうした競うような、あるいは並走するような平戸、長崎両都市の近代化と発展は、地理的条件とそれを生かす産業革命の内容に共通するものがあったことによる。ともに対馬暖流に面した位置で、湾口が絞られた佐世保湾、長崎湾といった天然の良港に恵まれ、大きな河川がない、土砂の流出や洪水がないなどから港の整備に好都合であった。このため、互いに競うように造船業が発展した。あるいは、海域も含め松浦から長崎半島にわたり良質の石炭資源があり、その採掘が行われてきた。こうした諸内容は、両都市におけるに明治時代の典型的な産業発展の土台をなすものであった。

さて、長崎における世界文化遺産「明治日本の産業革命」だが、これは、日本の産業が世界史的観点で重要との評価による登録であり、全国に広がりをもつ。８県（福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、山口、岩手、静岡）の１１市に及び、構成資産の総数は２３である。そのうち、長崎は８資産と最も多く、表７の一覧に示すとおりである。小菅の修船場跡（その形からソロバンドックと愛称された）、２つの炭鉱の島（高島と端島㊵）、旧グラバー住宅 ③および長崎造船所関係のクレーン③やドッグ旧木型場、迎賓館といった施設である。いずれも１９世紀の後半から２０世紀の初頭に整備され、産業の近代化に貢献してきた。

長崎造船所関係は、現在も稼働中である。このことから、旧木型場（史料館）を除いて公開されていない。しかし、それ以外は公開されているから、それらの遺産を含め、長崎の街を「さるく」ことは、本風景街道の大きな寄り道であり、且玉である。他の諸内容と合わせて以下にどうたどればよいかを説明しよう。

２　数奇な運命をたどった斜面都市長崎をさるく

鎖国策が続く中での国内唯一の貿易港を持つ幕府の直轄地として長崎は機能した。オランダ人や中国人の居留地が設けられ、世界へ通じる我が国唯一のゲートウェイとなった。また、明治維新後の産業近代化が進む中で、エネルギー資源である石炭に恵まれ、英国などとの交易を活発化させ、造船業などの先駆け的な近代産業の導入や港の整備が図られてきた。しかし、太平洋戦争では、その最後のところで原爆投下にあって焦土と化し、無に帰する辛酸をなめたことは世界が知るところである（写真㊶－１）。

そして戦後、高度経済成長の足がかりを得たものの、そこに待ち構えていたのが記録的短時間大雨情報創設の契機となった未曽有の大水害である。１９８２年当時、長崎半島の一角を占める長崎市中心部は、周辺の他地域との繋がりは国道３４、２０６、２０２号と長崎バイパスに限られ、災害に十分対処できない状況にあった。このため、２９９人の犠牲が出た１９８２年７月の大水害では、いずれの道も土砂災害に見舞われて遮断され陸の孤島と化し、復旧に２８日を要する大変な苦労に遭遇した。

そこで、改めて知恵を絞りだすように各ルートからのアクセス整備に努力が払われた（図９）。

◎　川平道路、西山トンネルによる長崎バイパスの整備、

◎　国道２０６号の改善、新日見トンネルによる国道３４号の強化、

◎　長崎道の延伸と長崎出島道路の新設、

表７　世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」における長崎県関連の構成資産

	構成資産	場所(長崎市)	竣工	登録面積ha	諸元など	概　要	公開	問合せ先
1	小菅修船場跡	小菅町5	1869落成	2.36	わが国初の蒸気機関を用いた洋式ドッグ	曳揚げ小屋は日本最古の煉瓦づくり建築。1953年閉鎖。国の史跡	○(小屋は非公開)	℡095-829-1314長崎市観光推進課
2	長崎造船所 第三船渠	飽の浦町1-1	1905竣工	2.28	竣工時全長222.2m、建造能力3万トン	竣工時東洋最大。明治の3ﾄﾞｯｸのうち唯1つ残るが、現在も稼働中（全長76.6m、建造能力9万5千トン）	非公開	092-828-4134長崎駅から専用バス運行（第2土・休館）
3	ｼﾞｬｲｱﾝﾄ・ｶﾝﾁﾚﾊﾞｰｸﾚｰﾝ		1909竣工	0.03	アップルビー社製、吊上げ能力150トン。	わが国最初の電動ｶﾝﾁﾚﾊﾞｰｸﾚｰﾝ。1961年移設、現在も稼働中	非公開	
4	旧木型場（史料館）		1898竣工	0.36	レンガ造り2階建	木造ｸｲｰﾝｽﾎﾟｽﾄﾄﾗｽ*、桟瓦葺き切妻屋根。造船所内では最古だが、1915年増築。現在は造船所の史料館。	完全予約	
5	占勝閣		1904落成	0.41	木造洋館(造船所所長邸宅)	丘の上にあり、邸宅として利用されず迎賓館となり、現在も使用中。	非公開	
6	高島炭鉱	高島町99-1	1868竪坑開削	0.17		近代炭鉱の先駆けで、1869年海底炭田に着炭。1986年に閉山	○	095-896-3110長崎市高島行ｾﾝﾀｰ
7	端島炭鉱	高島町	1870石炭採掘開始	6.51		1916年以降多くの鉄筋コンクリート造高層住宅建設。1974年閉山	○(上陸ツアー)	095-829-1314長崎市観光推進課
8	旧グラバー住宅	南山手町8-1	1863建築	0.31	コロニアル様式と日本伝統技術の融合	トーマスグラバーの邸宅。日本最古の木造洋風建築で欄間がアーチ型。国重要文化財	○	095-822-8223グラバー園(年中無休)

＊ 通常、三角型の屋根組では中央に支柱があるが(ｷﾝｸﾞﾎﾟｽﾄﾄﾗｽ)、ｸｲｰﾝｽﾞﾎﾟｽﾄﾄﾗｽはその中央支柱がない構造(図参照)。日本ではあまり用いられない。

㊵　端島炭鉱跡（通称軍艦島という）

◎ 唐八景トンネル、女神大橋による国道２０２号、４９９号の改築、などである。その結果、水害から３０年を経過した今日では、その都市構造は従前に比し格段に改善され、いまやどの方面からも安心してアプローチできる長崎のまちへと変身し、一層の斜面都市の形成へと突き進み、国際色豊かな都市としてたぐいまれなまちへ変貌したといえよう。

これらの経緯を踏まえると、長崎は単に景色のよい景観ポイント、観光名所を巡るだけのことではすまない。世界遺産の街、原爆の被害を忘れない都市、それらのもとでの多文化融合の発展や都市展開、文明開化の景観を探る斜面都市の風景街道である。

とはいえ、あまりの変化のため多彩で複雑。そこで、遊、通、学、食などさまざまなコースを設定し、低料金でまちを案内する仕組み㊻が用意されている。折角なら、外観だけでなく、市民ガイドの話を聞きながらぶらりぶらりと歴史、文化、暮らしなど、まちの内面を学びつつ「さるく」とよい。その意味で、以下はまち歩きの各コースを選ぶ参考に、著者なりの興味で長崎のまちの風景をたどり、概略を紹介するものである（図９）。

先ず、まちの全景を眺めるとすれば、湾口からは女神大橋⑭-２、ど真ん中からはＪＲ長崎駅前広場、そして高台からの稲佐山、グラバー園のグラバー邸③、西坂の丘⑲、風頭（かざがしら）公園といった様々な展望がある。そうした中で、中心市街地の全景となれば稲佐山の展望台が推奨である。昼間は当然として、夜景㊶-２がまた素晴らしく、２０１２年の夜景サミットで、モナコ、香港とともに世界新三大夜景の一つに選ばれたほどである。

その上で、長崎の人々にとって永遠に忘れられないのが、なんといっても太平洋戦争末期１９４５年８月９日の原爆投下であり、多くの犠牲者を出しまちが壊滅したことである（写真㊶-１）。国道２０６号を長崎駅方面から北上すると、道路沿いの右手に**浦上の爆心地公園**があり、そこが原爆落下中心地とされている。気づくように、浦上は、江戸時代幾度となく禁教令による弾圧を受けてきたところであり、明治時代に、隠れキリシタン達が浦上天主堂（これまた鉄川与助の設計）を築いて復活した。それが原爆の投下で天主堂は崩壊し、告解のため集まっていた全員の信者が死亡する悲運に見舞われた。何とも言いようがないが、俳人、水原秋桜子は、被爆した天主堂の惨状を見て『麦秋の　中なるが悲し　聖廃墟』と詠んでいる。また、廃墟の中から「長崎の鐘」が掘り出されたが、長崎医大で被爆した永井隆の随筆の題名に用いられたことで有名となり、周辺には、一本柱鳥居や被爆クスノキ（山王神社、ＪＲ浦上駅から北東方向の高台へ徒歩１０分）がいまなお残されている。

爆心地とそれに隣接する周辺一帯は平和記念像地区、原爆落下中心地区、長崎原爆資料館地区の３地区に分割して長崎平和公園として整備されている。これらを巡ると、様々な資料やモニュメントと共に、被爆者たちの歌や叫びを刻んだ石碑が数多く建てられている。犠牲者に思いをはせ、二度と人類が原爆、水爆を使用しないようにと、平和記念像②（南島原市出身の彫刻家北村西望作）を見上げながら、ひたすら祈らざるをえない。

平和公園から国道２０６号を戻り南下するとＪＲ長崎駅近くにＮＨＫ長崎放送局がある。そのすぐ後ろが、二章２節に述べた**日本二十六聖人殉教の地「西坂の丘」**であり、記念館、記念碑、教会が建ち並ぶ。キリシタンにとってはキリスト処刑の丘と重なる感があり、丘の上に立つと、江戸時代初期の潜伏キリシタン達の苦難に沈黙のキリストの教え、「私は沈黙していたのではない。お前たちと共に苦しんで

㊶-1　焼け野原の爆心地・浦上天主堂付近（現在の平和記念公園はほぼ同じ位置に設けられた）

㊶-2 世界新三大夜景の１つに選ばれた長崎市の夜景は、原爆から復活した都市の象徴である

㊸　斜面都市「長崎」（本蓮寺境内（筑後町）から西坂町方向を望む）

㊷　中島川の眼鏡橋

寄り道　長崎市への原子爆弾投下と被害状況

a　1945年8月9日の原子爆弾投下の経緯（公表された原子爆弾搭載機BLOCKSCAR（B-29）の記録をもとに、日本時間に直し作成したものである）

・午前2時47分　北マリアナ諸島のテニアン島を離陸。

・9時14分　第1目標の小倉市に到着。3回射撃航程に入るが、上空の霞または煙で投下目標確認できず、いずれも失敗。残燃料の余裕がなくなり、第2目標の長崎市へ向かう。

・10時50分頃、長崎市に到着。曇天だったが、雲間から一瞬市街地が見え、10時58分、原子爆弾（通称ファットマン）を高度9千mから投下。4分後の**「11時02分に、長崎市松山町の上空500m」**で爆発した。長崎はプルトニウム原爆（TNT火薬22000t相当）で、広島のウラン原爆の1．5倍の威力があった。

b　被害状況　爆心地を含む浦上地区は、中心市街地とは金毘羅山（標高366m）で隔てられ、浦上川に沿いながら長崎港へと連なる一帯である。本文に述べるように、隠れキリシタンの里だが、明治時代になり、九州鉄道（現在の長崎本線）が敷設され、湾口の島々での石炭採掘が活発化した。これらから、投下直前は、造船や兵器関連の工場が進出するとともに、文教や住宅、大型の公的施設などが集積する状況であった。そこへの原爆投下で、浦上天主堂が直撃を受け、集まっていた信者全員が即死、長崎医科大学の多くの患者や職員が犠牲になるなどした。原爆資料保存委員会の報告（1950年7月）によれば、1945年末までの死者は約7万4千人、重軽傷者は約7万5千人に及んだとのことであり、1945年5月末の配給人口23万4千人からみても大変な数の犠牲者である。また、全壊全焼・全懐・半壊といった罹災家屋の分布をみると、浦上の全てに広がっている。

いたのだ」（遠藤周作、「沈黙」）のささやきが聞こえるようでもある。

西坂の丘から東よりは、斜面の中腹を周回するように8つのお寺が連なるまち（筑後町、玉園町）㊸で、昔の面影が残されている。そして、その東端に長崎歴史文化博物館があり、隣接した長崎公園（1873年の太政官布告による長崎最古の公園）に「長崎くんち」で有名な**諏訪神社**㊹がある。

諏訪神社の起源は明らかでなく、16世紀の中頃ともいわれている。戦国時代にはキリスト教徒が支配、それが壊され、江戸時代に入って産山神として再興されたが、1857年の火災で焼失、1869年に再建され、さらに、1984、1994年二度の造営を経て現在に至る。諏訪・森崎・住吉の三社がまとめて祀られ、市民から「おすわさん」と呼ばれ、厄除け・縁結び・海上守護の神社として崇敬されている。境内に立派な神馬像（しんめぞう）があるが、これは、平和記念公園の平和祈念像の作者として知られる北村西望氏が102歳の時の作品とのことである。

諏訪神社の参道を下ると国道34号の電停・諏訪神社前に出るが、そこを流れる西山川、そして中島川を下ると有名な**眼鏡橋**㊷などの石橋群がある。1982年の大水害ではその半数以上が流され、残りも大きく損壊した。復旧は、石橋を移し川幅を広げるか、復元保存するかであったが、市民意見は割れた。そこで、川の両岸に沿道があり、これを利用して暗渠の分水路を建設し、石橋を復元する案が採用された。歴史遺産の保存か、災害安全の確保か。論争の末の解決策である。長崎を訪ね必ずや立ちよる観光客の姿を見ると、費用を要したものの、官民あげて両者が成り立つように知恵を絞った結果だと感心させられる。

石橋群の中島川から山手方向に2ブロックほど進めば、ここにも寺が等高線上の地形に沿うように並ぶ。それこそ町名は**寺町**であり、先に述べた地区と本区域に寺が集中している。このことはこうした地

㊺　長崎市のランタンフェスティバル　Ⓦ

㊹「長崎くんち」で有名な諏訪神社（長崎市上西山町）

㊻　「長崎さるく」によるガイド

㊼　「長崎くんち」の龍踊の龍(長崎伝統芸能館)

域がかつて市街地縁辺部であったことを意味する。

寺町から、再び中島川に戻るか、寺町を過ぎ鍛冶屋町まで歩くと、国道324号または路面電車の通り（電停で正覚寺下または思案橋）にでる。かつて、遊郭へ「行こうか戻ろうか」と思案したことに因む**思案橋**だが、そこから、少し南に歩くと坂本竜馬（幕末の志士で、貿易会社兼政治組織・亀山社中（海援隊）を率いた）の刀傷が残る料亭花月があり、丸山花街の跡である。

いずれにしても、その後は川沿いを下るか、路面電車で長崎港方面に向かえば出島に至る。この出島は、言わずと知れたオランダ人の居留地である。現在は復元され、中に入るとミニテーマパーク「**出島オランダ商館跡**」（国史跡）があり、見て回るのに1時間はかかるだろう。

出島の東隣りは**新地中華街**㊺。江戸時代に埋め立てられ倉庫があったところだが、それを整備し、いまでは主に福建省からの中国人が経営する中華料理店が並んでいる。

ついで、オランダ通りを伝いながら、オランダ坂、松ヶ枝通りを横断し南下すると、南山手町、いわゆる**大浦天主堂**⑰、**グラバー園**③がある。この高台一帯は、長崎の近代化を支えた人たちが住んだ屋敷まちであるが、いまでは多くの観光客が訪れるところでもある。あるいは、少し裏手の路に入ると、対照的に坂道ながら教会、神社、寺への参詣の道が交わる通り（祈りの三角ゾーン（国際あいさつ通り））があり、公園などでは「くんち踊り」の練習が行われ、まるでまちの勝手口を覗く感があり、面白い。

以上が、著者が長崎をさるいた概略のまち歩きである。帰りは海岸線にでて国道499号を北に戻ると、松ヶ枝国際ターミナル、水辺の森公園、長崎県美術館、大規模商業施設と、現代都市の賑わいがあり、JR長崎駅

㊽　江戸時代末期に上野撮影局で撮影された坂本竜馬

寄り道　坂本龍馬の長崎（亀山社中、海援隊）

坂本龍馬（1836～1867）は、土佐藩郷士（農村に居住する武士）の出だが、江戸末期、志士として、長崎を主な拠点にして、討幕および明治維新に大きく関わった重要な人物であり、その歩みは次の3つのことに要約できる。

a　若い頃、江戸で剣術や兵法を学び、帰郷後、土佐勤王党として活動していたが、1862年に**脱藩**。その後に、勝海舟の弟子となり、神戸海軍操練所や海軍塾の創設などを手伝った。1864年、勝が軍艦奉行を罷免され、海軍操練所は廃止されたが、その際、勝は竜馬ら塾生の庇護を薩摩藩に依頼した。こうした脱藩後の経験およびその時の薩摩や長州の活動家達との交わりが、後の活動に大きな影響をあたえたとみることができる。

b　薩摩の支援を得て、長崎で竜馬らの**亀山社中**が結成（1866年中頃）され、その活動が2つ目である。社中とは同じ目的を持つ人々の集まりのことだが、亀山社中は商業活動と政治結社を併せた組織であった。この時代における竜馬の働きは、京都御所の禁門（蛤御門）の変で互いに敵対した長州（木戸孝允）と薩摩（西郷隆盛）が討幕のため、竜馬および中岡慎太郎の仲介で薩長連合を結んだことである。また長州の新式兵器や軍艦の購入に尽力したことである。特に第二次長州征伐（1866年）では、長州を支援し、下関戦争における小倉藩渡海作戦に参画し、勝利に導いたといえよう。

その一方、投宿していた京都の伏見寺田屋で伏見奉行の捕り手に踏み込まれたが、恋人のお龍（おりょう）の機転で難を逃れる出来事があった。その際、左手に深い傷を負った。その時の傷の手当の旅にと二人で鹿児島の霧島山や日当山温泉などを巡ったが、これが我が国の新婚旅行の始まりともいわれている。

c　1866年後半に入ると、かつて勤王党を粛正した土佐藩も様変わりし、長崎で武器弾薬を購入するようになり、竜馬の脱藩を赦免し、接触を図ってきた。その結果、1867年に、それまでの亀山社中を土佐藩の外郭団体とし、**海援隊**へと名称を改えた。土佐藩の藩士や脱藩者、海外事業に志を持つ者を引き受け、運輸、交易などの事業を行うものであった。この頃になると、国内的には討幕活動は風雲急を告げ、1867年11月9日、薩摩・長州に対し討幕の密許が与えられた一方で、第15代将軍徳川慶喜から明治天皇に大政奉還が上奏され、11月10日に勅許がおり、討幕は延期された。これを受け、竜馬は新政府の新官制議定書や綱領八策を起草した。

そして、人材集めに奔走するなど、まさにこれからというときの12月10日に、京都河原町の近江屋新助宅2階にいたところを、十津川郷士と名乗る数人に襲われ、中岡慎太郎などと共に暗殺され、短い生涯を終えた。

立場を越えて支え合ってきた西郷隆盛は、坂本竜馬について次のように語っている。「天下に有志あり、余多くこれと交わる。然れども度量の大、龍馬に如くもの、未だかつてこれを見ず。龍馬の度量や到底測るべからず」。あるいは、同郷の士でもある板垣退助は、「豪放磊落、到底吏人たるべからず、龍馬もし不惑の寿を得たらんには、恐らく薩摩の五代才助（友厚）、土佐の岩崎弥太郎たるべけん」と述べている。

現在、長崎市内に坂本竜馬に関する遺品・遺跡などがいくつか残り、その一つに亀山社中跡がある。市内の新大工町電停から中島川を渡り、寺町通りを少し進むと禅林寺と深崇寺の隣り合う2寺がある。その間に竜馬通りの石碑が立ち、細い階段道がある。それを、約300m登ったところに、街を見下ろすポケットパークがあり、竜馬のトレードであった「ぶーつ」の像がある。また、その向かいの亀山社中の跡地に当時に近い形で記念館（伊良林2丁目7-24）が建てられ、複製であるが竜馬の書簡や紋付、刀などが展示されている。また、そこから少し山を登ったところに風頭公園があり、世界を見つめるように坂本龍馬の像が建っている。

写真㊽は、1866または67年頃の坂本龍馬だが、日本の最初期の写真館として、長崎市で、新大工町電停近くの中島川河畔に開業した上野彦馬の撮影局で撮影されたものである。傷ついた腕を懐にし、ブーツを履きながら、「日本を今一度せんたくいたし申候」の言葉が聞こえてくるようである。

表８　西海市、長崎市の直販所および観光案内所

市	直売所（曜日は市の開催日）	電　話	住　所
西海市	幸の駅	0959-33-2481	西海町七釜郷1886-1
	漁業者グループ直営　魚処西海	0959-32-2131	西海町木場郷490
	船番所　旬彩	0959-32-2081	西海町横瀬郷3552-2
	大島農産物直売所「とれたて市場」	0959-37-1166	大島町1876-6
	大瀬戸ふれあい市	0959-22-0552	大瀬戸町瀬戸樫浦郷2502-11
	旬どころ	0959-28-1370	西彼町八木原郷662-1
	西海大崎漁協直売所 活き生き市場	0959-34-2039	大島町寺島1325-107
	直売所よかところ	0959-32-1101	西海町木場郷490
	長崎せいひグリーンセンター	0959-29-7090	西彼町小迎郷2819-1
	西彼とれたて処	0959-27-0985	西彼町上岳郷1297-1
	西彼町漁協直売所	0959-28-1091	西彼町八木原郷2017-3
	大瀬戸もちより市　（木）	0959-23-3080	大瀬戸町瀬戸西浜郷858
長崎市	長崎漁港　がんばランド	095-850-5500	京泊町3丁目1929-20
	長崎市新三重漁協活魚センター	095-850-1578	三重町348-9
	かきどまり海の見える直売所	095-841-1838	柿泊町973
	長崎市みなと漁協外海支所直売店	095-24-0315	神浦江川町554-6
	海と大地のめぐみ	095-860-1200	京泊町3丁目4-45
	JA長崎せいひ ふれあい市　新大工店	095-825-1307	桜馬場1丁目2-27
	びわっちファーム　太陽の郷	095-832-6780	弥生町20-30
	JA長崎せいひ　ふれあい市　大浦店	095-820-2552	大浦東2-12
	ふれあい市　住吉店	095-845-8223	住吉町13-4
	もぎたて新鮮市	095-836-3555	茂木町1-134
	長崎市三和農水産物直売所みさき駅さんあ	095-892-0380	布巻町88-1
	野母崎三和漁協活魚流通センター	095-893-1103	脇岬町3386-27
	のぼざき物産センター	095-893-0950	野母町568-1
	野母崎ふれあい市場	095-893-2111	野母町568-1
	でじま朝市　（火）	095-825-8558	出島町1-1
	のもざき朝市　（火）	095-893-2401	野母町2912
	さんわふれあい木曜市（木）	095-892-0005	為石町2519
	農村レストラン	特になし	
市	観光案内所	電　話	住　所
西海	西海市観光協会大島崎戸観光案内所	0959-34-2208	西海市大島町1367-19
	同観光協会おもてなしステーション	0959-37-5833	西彼町喰場郷1686-1
長崎	長崎国際コンベンション協会	095-823-7423	出島町1-1　出島ワーフ2F
	同　長崎さるく受付	095-811-0369	
	長崎市総合観光案内所	095-823-3631	尾上町1-1（JR長崎駅）
（一社）長崎県観光連盟		095-826-9407	尾上町3-1
長崎県観光振興課		096-895-2647	

にたどり着き、図９のひと筆まち歩きとなる。なお、反対の南に下れば、小菅修船場跡（世界遺産）、女神大橋、香焼・伊王島、南端の野母崎に至り、長崎半島を縦断することができる。

世界文化遺産のうち、長崎造船所関係の施設は公開されていないものの、三菱史料館については見学ができる。ＪＲ長崎駅から、個人客専用のバス（移動４０分＋見学５０分）が運行されており、利用するとよい。

一方、世界文化遺産の高島炭鉱および端島炭鉱（通称軍艦島）㊵は、いずれも島をベースにして海底に掘り進んだものであるが、これらに九州で最後に閉山された海底炭鉱・池島を加えた３つが、本風景街道における主要な炭鉱の島といってよい。石炭から石油へのエネルギー転換の中で廃坑となり、多くの島民が島を離れ、中には無人と化した島もある。これらの島と、長崎半島の野母沖の海域の遊覧を含めて、長崎港の各ふ頭から多彩な遊覧船がでているが、船による遊覧は、天候に左右されることから、島への上陸の有無を含めて、詳細は事前に長崎コンベンション協会（表７）に問い合わせることである。

また、市内定期観光バス（長崎よかとこコース１日２便、所要時間約５時間。長崎夜景コース、１日１便、所要時間約２時間半（食事有はさらに１時間）。０９５―８５６―５７００）は、長崎駅前のバスターミナルなどから発着している。

さらに、長崎市は**路面電車**のまちであり、前述した市街地の範囲であれば、稲佐山を除くすべてがその沿線といってよい。格安の１日乗車券があれば何度でも乗れ、それを利用すれば道に迷うこともなく、大変便利である。九州では熊本、鹿児島、長崎の３都市だけと珍しくなった路面電車の街を車窓から眺めながら「さるく（歩き回る）」ことは懐かしくもあり、乗り物に興味ある人には大きな思い出になるであろう。

稲佐山へは車による登山道の利用かロープウェイとなる。なお、市内からロープウェイ淵神社駅まで路線バスがあり、さらに、午後７時～１０時の間は、中心部の主要ホテルとＪＲ長崎駅から淵神社駅まで無料の循環バスが出ている。

３　長崎のまちのホテル、特産品など

○　祭りなど

長崎市の祭りとして有名なものに２月の「ランタンフェスティバル」㊺と９月の「長崎くんち」がある。前者は、新地中華街の春節祭を、まちあげての祭りに発展させたものである。中華街だけにとどまらず、湊公園を主会場に市内各所にランタンやオブジェが飾られ、また皇帝パレードや媽祖行列、胡弓演奏などが催されている。

後者は国指定無形民俗文化財で、博多、唐津くんちとともに日本三大くんちの一つである。１６３４年、２人の遊女が諏訪神社に謡曲「小舞」を奉納したことに始まる。現在は、旧町７７を７つに分割し、各町が７年に一度、傘鉾を先頭に、龍踊（じゃおどり）、川船、本踊、太鼓山（コッコデショ）、鯱太鼓、阿蘭陀漫才、御朱印船などを、「もってこーい　もってこい」のアンコールを受けつつ奉納するものである。特に激しく踊る龍（じゃ）踊りが著名だが、これらがまた日本、西洋、中国色などが入り混じり、「和華蘭」祭りであるといってよい。

なお、グラバー園内の出口に長崎伝統芸能館がある。そこでは「長崎くんち」の様子のビデオ放映と、御座船や龍踊りの龍㊼、傘鉾などが展示されている。時期が限られ、見損ねた人には雰囲気を味わうことができありがたい。

○　ホテルについて

ＪＲ長崎駅地区及びその周辺（浦上、稲佐、出島など）に多くのホテルがあり、ざっと数えただけでも２５は下らない。それら以外では寺町・鳴滝、東山手・南山手、伊王島、野母崎、赤迫といった地区に点々と存在する。

○　食、特産品など

国際都市であり、多彩な料理がある。また、専門の料理店や中華街、大規模商業施設内の飲食店街がある。

和食の刺身、すし、鯨、中華の長崎ちゃんぽん、皿うどん、角煮、豚足、コース料理、洋食のビフテ

キ、トルコライスなどと迷うほどに楽しむことができる。そして、とどのつまりは先に紹介した卓袱（しっぽく）料理であろう。複数人で円卓を囲み、大皿料理を取り分けながら食べるもので、この点では中華料理に同じである。通常、「お鰭（おひれ。吸い物のこと）をどうぞ」で始まり、その後主催者あいさつ、乾杯が行われ、ついで大皿がふるまわれる。その後いくつかの中鉢、大鉢が続き、最後は通常、梅椀（汁粉、果物）となるが、決まった形式はない。

特産品は、焼きあご、ちくわ、からすみなどの水産品、角煮や肉まんなどがある。菓子類ではカステラや饅頭、ざぼん漬け、中華菓子が有名で、工芸品ではべっこう、さんご、凧、ビードロなどがある。

直売所を表7に示す。西海市から外海にかけて、いわゆる西彼杵半島に直売所がある。また、長崎半島の野母崎方面は直売所とともにふれあい市場がある。

○ 情報案内、道の駅など。

西海市の西彼総合支所おもてなしステーション、大島大橋を渡ったすぐの大島崎戸観光案内所がある（表8）。また、県道43号沿いの旧西海町および国道202号沿いの外海に道の駅がある（表9）。長崎市内は、長崎駅構内に総合観光案内所があり、また国際コンベンション協会が長崎さるくの受付（095―811―0369）を行っている。他にも、県全体が半島、離島地域であることから、長崎県がまた観光振興に力を入れており、比較的情報を得やすく、駅などでも様々なパンフレットが揃っているので利用するとよい。

表9　ながさきサンセットロード地域の道の駅

	駅　名	電　話	住　所
平戸市	生月大橋(県道42号)	0950-53-2927	生月町南免4375-1
	○提供エリアおよび提供時間 ○情報提供機器 ○情報提供内容	「観光協会売店」内　8：30~18：00（7/21~8/20） 8：30~17：30（8/21~7/20） 大型画面（テレビ）1台　情報端末（電光掲示板）1台 ［道路、近隣駅］　ルート情報を地図・掲示板で提供 ［観光］　駅周辺の観光・レストラン情報を掲示板・チラシで提供 ［他の道の駅］　掲示板で提供 ［その他］　九州内のイベント情報をチラシで提供	
	昆虫の里たびら（国道204号）	0950-57-0144	田平町深月免521
	○提供エリアおよび提供時間 ○情報提供機器 ○情報提供内容	「休憩室」内　9：00~18：00 情報端末（電光掲示板）1台 ［道路、近隣駅］　道路情報等を電光掲示板。 ルート情報を掲示板・チラシで提供 ［観光］　駅周辺の観光・宿泊施設・レストラン情報を 掲示板・チラシで提供 ［他の道の駅］　地図で提供 ［その他］　なし（不明）	
西海市	さいかい（県道43号）	0959-37-4933	西海町木場郷488-1
	○提供エリアおよび提供時間 ○情報提供機器 ○情報提供内容	「ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ」　夏9：00~18：00、冬9：00~17：00 大型画面1台　情報端末（電光掲示板）1台 ［道路、近隣駅］　ルート情報を掲示板・チラシ・地図で提供 ［観光］　駅周辺の観光・レストラン情報を掲示板・チラシで提供 ［他の道の駅］　地図で提供 ［その他］　なし（不明）	
長崎市	夕陽が丘そとめ（国道202号）	0959-25-1430	東出津町149-2
	○提供エリアおよび提供時間 ○情報提供機器 ○情報提供内容	9：00~19：00（4~9月）、9：00~18：00（10~3月） 大型画面（DVD再生専用）1台 ［道路、近隣駅］　ルート情報，通行止め情報を地図・掲示板で提供 ［観光］　駅周辺の観光・レストラン・宿泊施設情報をチラシで提供 ［他の道の駅］　なし（不明） ［その他］　なし（不明）	
松浦市	松浦海ふるさと館（国道204号）	0956-72-2278	志佐町庄野免226-30
	○提供エリアおよび提供時間 ○情報提供機器 ○情報提供内容	「情報発信コーナー」8：30~19：00 情報端末1台 ［道路、近隣駅］　道路交通情報を情報端末で提供 ［観光］　駅周辺の観光・レストラン・宿泊施設情報を掲示板・ チラシ・情報端末で提供 ［他の道の駅］　情報端末で提供 ［その他］　EV{充電器、体験学習施設あり	
	鷹ら島（一般県道鷹島肥前線）	0955-48-3535	鷹島町神崎免1636
	○提供エリアおよび提供時間 ○情報提供機器 ○情報提供内容	情報コーナー　8：30~19：00（3~9月）、8：30~18：00（10~2月） 大型画面3台 ［道路、近隣駅］　ルート情報を掲示板で提供 ［観光］　駅周辺の観光・レストラン・宿泊施設情報を掲示板・ チラシで提供 ［他の道の駅］　なし（不明） ［その他］　なし（不明）	

注）H26.12～H27.1月の実態調査による

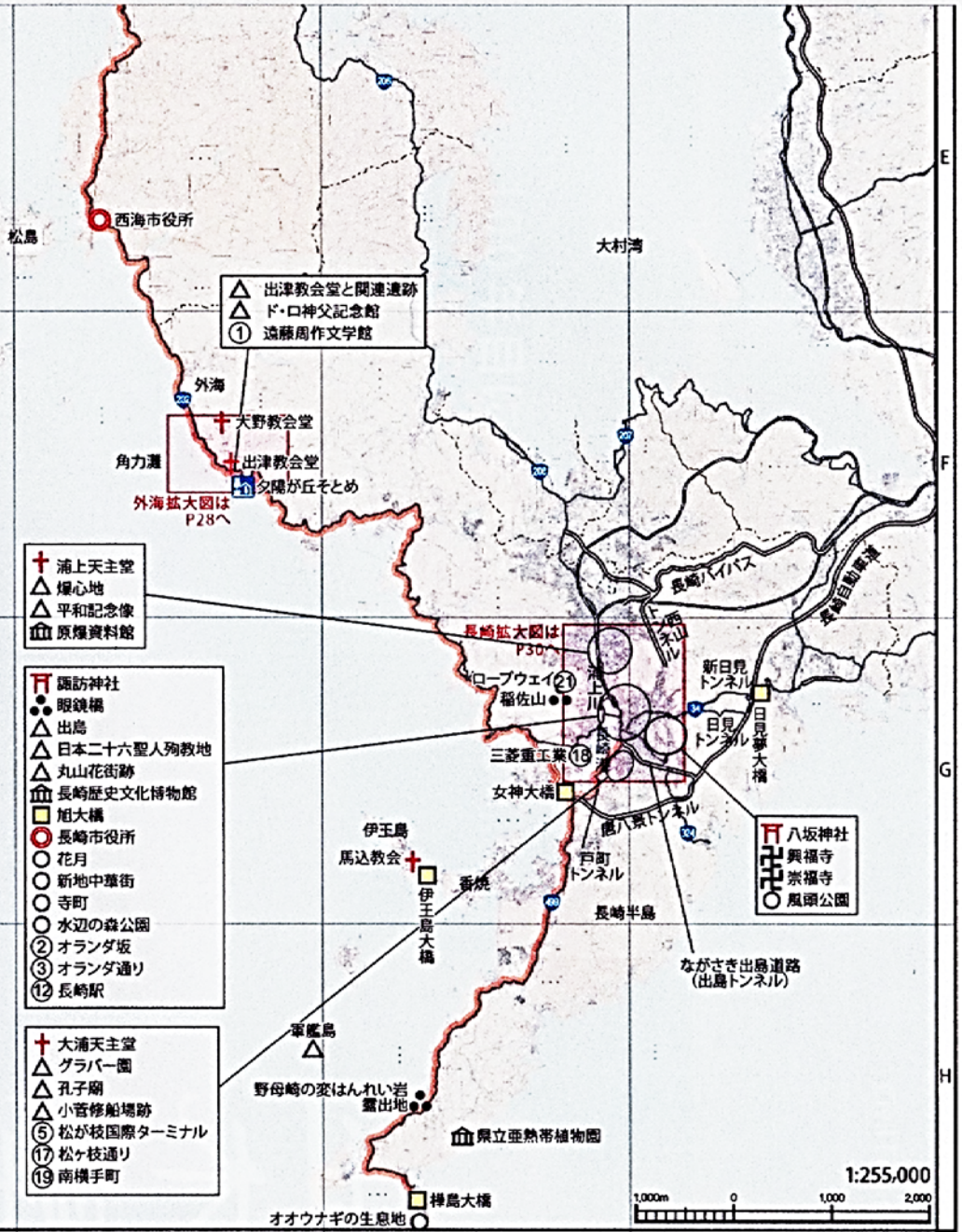
寄り道　長崎ちゃんぽん

九州では、うどんやそばに加えて、庶民的でポピュラーな麺料理として、地域ごとのご当地ラーメンがある。むろん、長崎市内にも、そうしたラーメン店が多くみられるが、それに劣らず、「長崎ちゃんぽん」が広くいきわたっている点で、他地域と異なる。〝ちゃんぽん〟とは混ぜる、あるいは混ぜたものを意味し、福建省の福建料理をベースに、豚肉や魚介類、野菜かまぼこなど様々な地元食材を混ぜ合わせたものを炒めてのせた汁麺である。明治中期に、長崎を訪れる中国からの若者達のため、中華料理店「四海樓」の初代店主が発案したともいわれるが、他の説もある。麺、具、スープのいずれもラーメンとは異なる味だが、今では、長崎の中華料理店や地元飲食店に普及するとともに、小浜（雲仙市）や天草諸島などでのご当地ちゃんぽんとしての広がりもある。

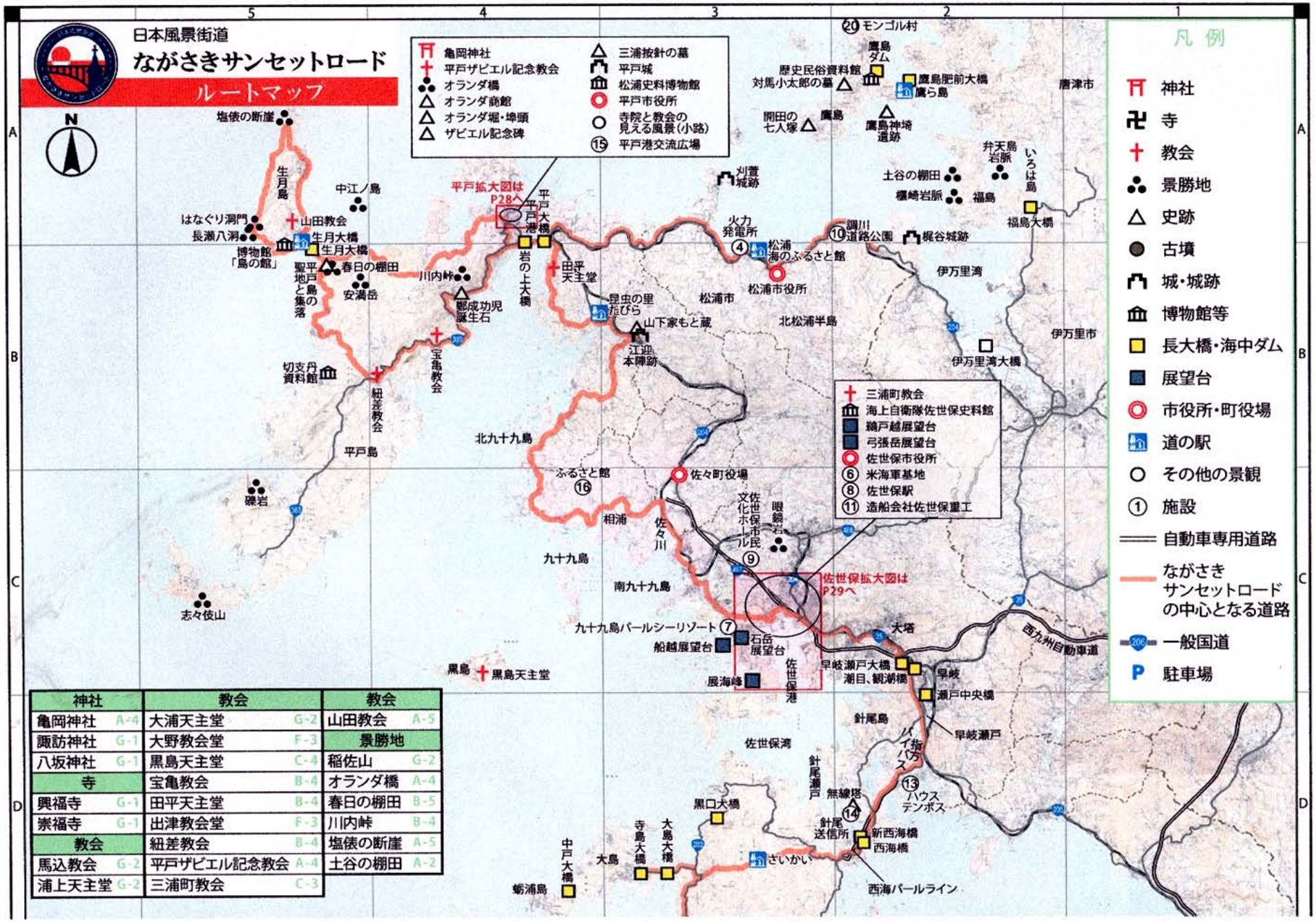
巻末：地図一覧

ながさきサンセットロード全体図
平戸拡大図、外海拡大図
佐世保拡大図
長崎拡大図

景勝地		博物館等		市役所・町役場	
長瀬八洞	A-5	海上自衛隊佐世保史料館	C-3	平戸市役所	A-4
中江ノ島	A-5	切支丹資料館	B-5	松浦市役所	B-3
野母崎の変はんれい岩		原爆資料館	G-2	**道の駅**	
露出地	H-2	県立亜熱帯植物園	H-2	生月大橋	A-5
櫃崎(ひつさき)岩脈	A-2	長崎歴史文化博物館	G-1	昆虫の里たびら	B-4
井天島岩脈	A-2	博物館「島の館」	A-5	さいかい	D-3
眼鏡岩	C-3	松浦史料博物館	A-4	鷹ら島	A-3
眼鏡橋	G-1	歴史民俗資料館	A-2	松浦海のふるさと館	B-3
礫岩(つぶていわ)	C-5	**長大橋・ダム**		夕陽が丘そとめ	F-3
はなぐり洞門	A-5	旭大橋	G-2	**その他の景観**	
志々伎山(しじきさん)	C-5	伊王島大橋	G-2	寺院と教会の見える風景	
安満岳	B-5	生月大橋	B-5	(小路)	A-4
史跡		岩の上大橋	A-4	花月	G-1
オランダ商館	A-4	大島大橋	D-3	風頭公園	G-1
オランダ堀・埠頭	A-4	樺島大橋	H-2	新地中華街	G-1
グラバー園	G-2	黒口大橋	D-3	寺町	G-1
軍艦島	H-3	西海橋	D-2	松浦水軍まつり	B-3
孔子廟	G-2	潮目、観潮橋	C-2	水辺の森公園	G-1
小菅修船場跡	G-2	新西海橋	D-2	オオウナギの生息地	H-2
ザビエル記念碑	A-4	瀬戸中央橋	D-2	**施設**	
鷹島神埼遺跡	A-2	鷹島ダム	A-2	①遠藤周作文学館	F-3
対馬小太郎の墓	A-2	鷹島肥前大橋	A-2	②オランダ坂	G-1
鄭成功児(ていせいこうじ)		寺島大橋	D-3	③オランダ通り	G-1
誕生石	B-4	中戸大橋	D-4	④火力発電所	B-3
出島	G-1	早岐瀬戸大橋	C-2	⑤松が枝国際ターミナル	G-2
出津教会堂と関連遺跡	F-3	日見夢大橋	G-1	⑥米海軍基地	C-3
ド・ロ神父記念館	F-3	平戸大橋	A-4	⑦九十九島パールシーリゾート	C-3
日本二十六聖人殉教地	G-2	福島大橋	A-2	⑧佐世保駅	C-3
爆心地	G-2	女神大橋	G-2	⑨佐世保市民文化ホール	C-3
開田の七人塚	A-3	伊万里湾大橋	B-2	⑩調川道路公園	A-2
平戸島の聖地と集落	B-5	**展望台**		⑪造船会社佐世保重工	C-3
平和記念像	G-2	石岳展望台	C-3	⑫長崎駅	G-2
三浦按針の墓	A-4	鵜戸越展望台	C-3	⑬ハウステンボス	D-2
山下家もと蔵	B-3	展海峰	C-3	⑭針尾送信所	D-2
無線塔	D-2	船越展望台	C-3	⑮平戸港交流広場	A-4
丸山花街跡	G-1	弓張岳展望台	C-3	⑯ふるさと館	C-4
城・城跡		**市役所・町役場**		⑰松ヶ枝通り	G-2
江迎本陣跡	B-3	西海市役所	E-3	⑱三菱重工業	G-2
梶谷(かじや)城跡	A-2	佐々町役場	C-3	⑲南横手町	G-2
刈萱(かるかや)城跡	A-3	佐世保市役所	C-3	⑳モンゴル村	A-2
平戸城	A-4	長崎市役所	G-1	㉑ロープウェイ	G-2



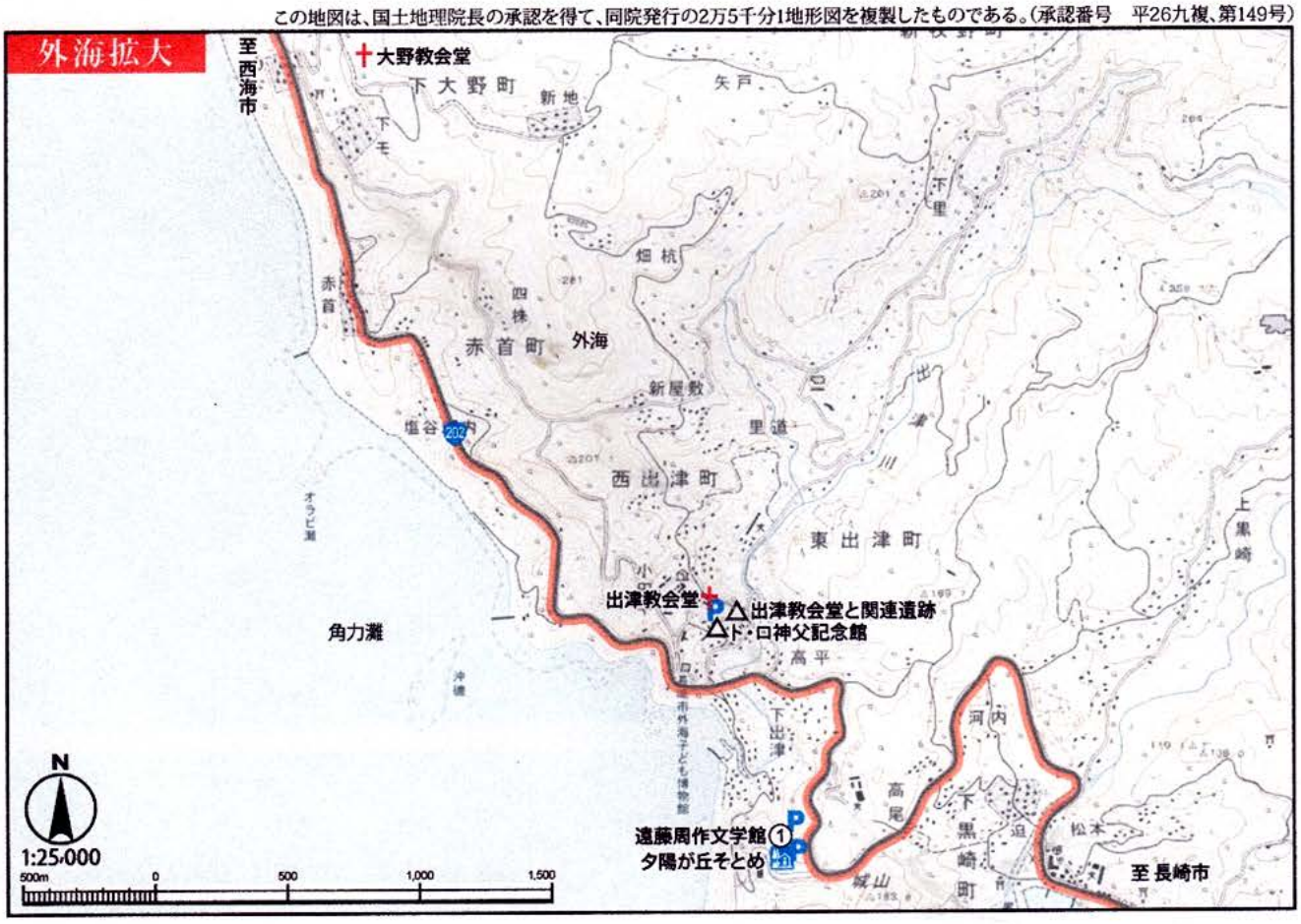
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第149号)



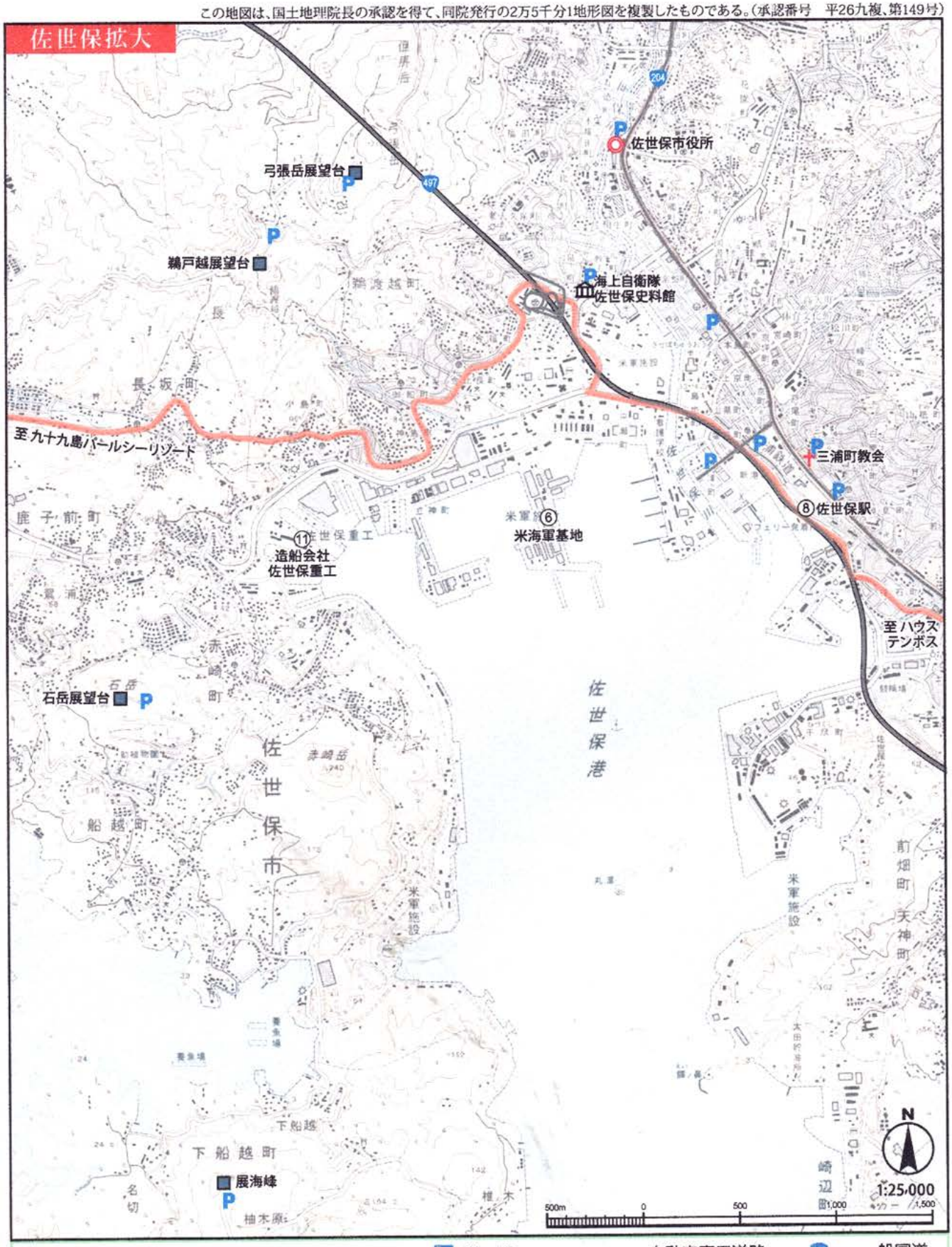
神社		教会		教会	
亀岡神社	A-4	大浦天主堂	G-2	山田教会	A-5
諏訪神社	G-1	大野教会堂	F-3	**景勝地**	
八坂神社	G-1	黒島天主堂	C-4	稲佐山	G-2
寺		宝亀教会	B-4	オランダ橋	A-4
興福寺	G-1	田平天主堂	B-4	春日の棚田	B-5
崇福寺	G-1	出津教会堂	F-3	川内峠	B-4
教会		紐差教会	B-4	塩俵の断崖	A-5
馬込教会	G-2	平戸ザビエル記念教会	A-4	土谷の棚田	A-2
浦上天主堂	G-2	三浦町教会	C-3		

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第149号)

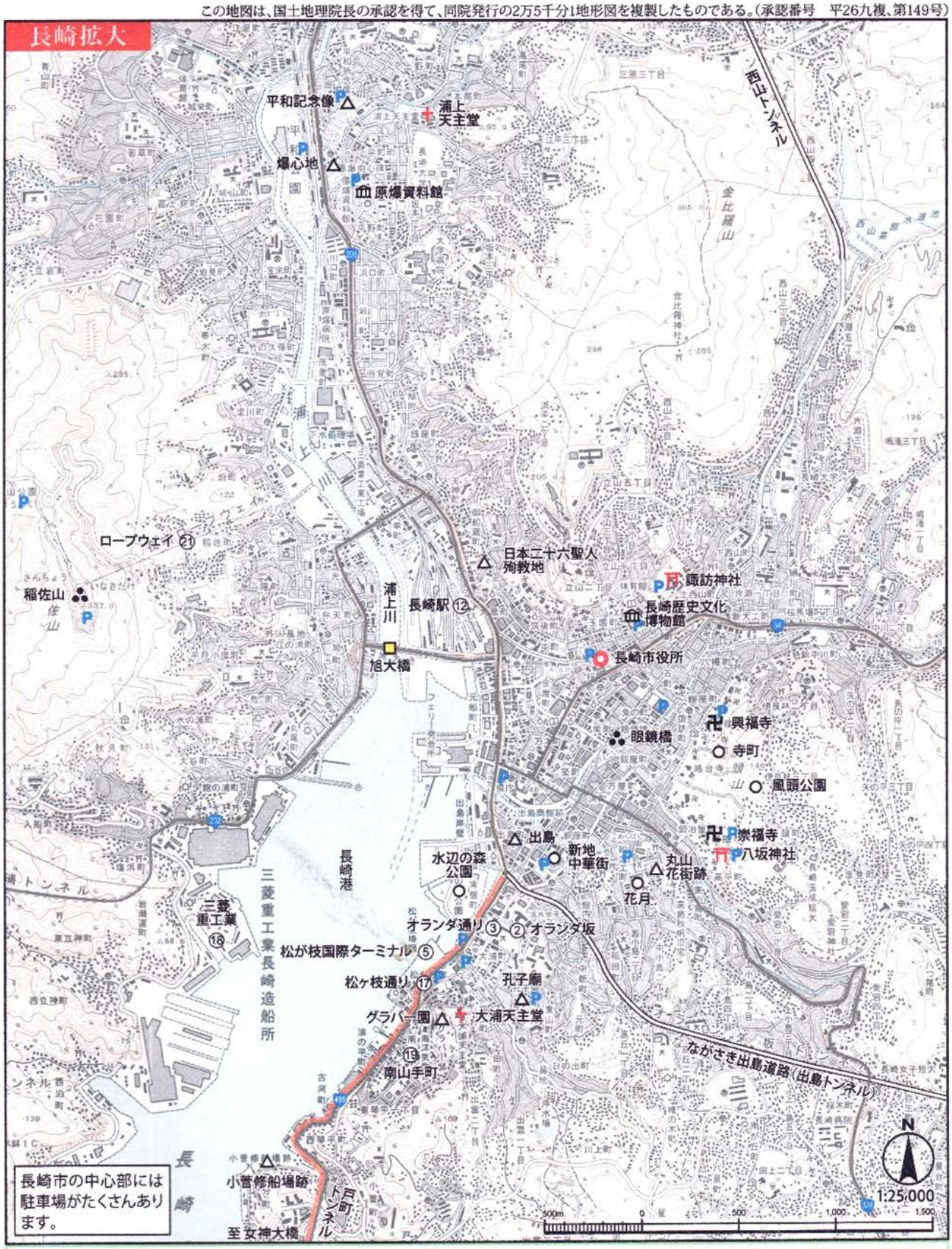
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第149号)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第149号)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第149号)



九州風景街道のガイドブック一覧

List of Guidebook of Scenic Byway Kyushu

http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/fukeikaido/guidebook.html

（上記のホームページからコピーできます。（無料））

全体編　○Japanese Edition:　**九州の風景街道**　　**その１　総論**

○English Edition：　**Scenic Byway Kyushu**　**Part 1 Overview**

その２　ルート別ガイド	Part2　Leaflet by Route	
日南海岸きらめきライン	Q-❶	Nichinan Sparkling Coast
日豊海岸シーニック・バイウェイ	Q-❷	Nippo Seashore Road
ながさきサンセットロード	Q-❸	Nagasaki Sunset Highway
北九州おもてなし“ゆっくりかいどう”	Q-❹	Kitakyushu Hospitality Roads
ちょっとよりみち唐津街道むなかた	Q-❺	Munakata Historic Byway
かごしま風景街道	Q-❻	Kagoshima Scenic Byways
玄界灘風景街道	Q-❼	Genkai Coastal Highway
九州横断の道やまなみハイウェイ	Q-❽	Yamanami Highland Parkway
九州横断の道阿蘇くまもと路	Q-❾	Aso/Kumamoto Scenic Roads
豊の国歴史ロマン街道	Q-❿	Toyonokuni History Roads
みどりの里・耳納風景街道	Q-⓫	Green Village in Minou Mountains
別府湾岸・国東半島海べの道	Q-⓬	Scenic Area of Beppu Bay and Kunisaki Pen.
あまくさ風景街道	Q-⓭	Amakusa Islands Drive
薩摩よりみち風景街道	Q-⓮	North Satsuma Scenic Tour
島原半島うみやま街道	Q-⓯	Umi-Yama Scenic Byway in Shimabara Pen.

九州風景街道ガイドブック

人のくに、美のくに九州　　Q－3　ながさきサンセットロード

令和 2 年 7月 1日　　2版

ルートガイド編纂委員会：樗木武、堤昌文、玉川孝道、吉竹哲信、桝谷秀秋
長崎さんセットロード担当（文責）：樗木　武

協　力　ながさきサンセットロード推進協議会
長崎県土木部道路維持課
Tel　095-824-1111

発　行　九州風景街道推進会議　©
事務局（九州地方整備局 道路管理課内）

禁無断転載